

Docket No. 205381US2/vdm

JUL 16 2001

PATENT & TRADEMARK OFFICE

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Kazuyuki SEKI, et al.

SERIAL NO: 09/821,248

FILED: March 30, 2001

FOR: IMAGE INPUT APPARATUS, PROGRAM EXECUTED BY COMPUTER, AND METHOD FOR PREPARING DOCUMENT WITH IMAGE

GAU:

EXAMINER:

REQUEST FOR PRIORITY

ASSISTANT COMMISSIONER FOR PATENTS
WASHINGTON, D.C. 20231

SIR:

- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Application Serial Number [US App No], filed [US App Dt], is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §120.
- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Provisional Application Serial Number, filed, is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119(e).
- ☒ Applicants claim any right to priority from any earlier filed applications to which they may be entitled pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119, as noted below.

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicants claim as priority:

<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NUMBER</u>	<u>MONTH/DAY/YEAR</u>
JAPAN	2000-100126	March 31, 2000
JAPAN	2000-100137	March 31, 2000
JAPAN	2000-136406	March 31, 2000
JAPAN	2000-109973	April 11, 2000
JAPAN	2000-109974	April 11, 2000
JAPAN	2000-109975	April 11, 2000
JAPAN	2000-269419	September 5, 2000
JAPAN	2000-269420	September 5, 2000
JAPAN	2000-269421	September 5, 2000
JAPAN	2001-073153	March 14, 2001

Certified copies of the corresponding Convention Application(s)

- ☒ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee
- ☐ were filed in prior application Serial No. filed
- ☐ were submitted to the International Bureau in PCT Application Number .
Receipt of the certified copies by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.
- ☐ (A) Application Serial No.(s) were filed in prior application Serial No. filed ; and
(B) Application Serial No.(s)
 - ☐ are submitted herewith
 - ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee

Docket No. 205381US2

Serial No. 09/821,248

REQUEST FOR PRIORITY UNDER 35 U.S.C.119
(CONTINUED)



22850

Tel. (703) 413-3000
Fax. (703) 413-2220
(OSMMN 10/98)

Respectfully Submitted,

OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,
MAIER & NEUSTADT, P.C.

Joseph A. Scafetta Jr.

Marvin J. Spivak

Registration No. 24,913

Joseph A. Scafetta, Jr.
Registration No. 26,803

09/821,248



日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office:

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 3月31日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-100126

出 願 人

Applicant(s):

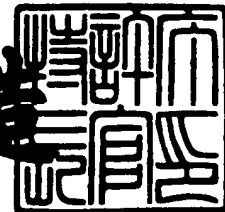
株式会社リコー

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 4月 6日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3027210

【書類名】 特許願

【整理番号】 0002167

【提出日】 平成12年 3月31日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 5/225

【発明の名称】 画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置、および画像入力システム

【請求項の数】 57

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式会社リコー内

【氏名】 関 和之

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式会社リコー内

【氏名】 鈴木 啓一

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式会社リコー内

【氏名】 興石 隆保

【特許出願人】

【識別番号】 000006747

【氏名又は名称】 株式会社リコー

【代理人】

【識別番号】 100089118

【弁理士】

【氏名又は名称】 酒井 宏明

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 036711

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9808514

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置、および画像入力システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、
少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、
前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、
前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、
を備えたことを特徴とする画像入力装置。

【請求項 2】 さらに、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段を備え、
前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行することを特徴とする請求項 1 に記載の画像入力装置。

【請求項 3】 前記記録モードでは、被写体の静止画像、二値画像、および動画画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データが記録されることを特徴とする請求項 2 に記載の画像入力装置。

【請求項 4】 前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルのパラメータ内に前記選択手段で選択されたカット名を付加することを特徴とする請求項 2 または請求項 3 に記載の画像入力装置。

【請求項 5】 前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルを、前記選択手段で選択されたカット名に関連づけて記憶することを特徴とする請求項 2 または請求項 3 に記載の画像入力装置。

【請求項 6】 前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルのファイル名を、少なくとも一部に前記選択手段で選択されたカット名を含むようにしたことを特徴とする請求項 2 または請求項 3 に記載の画像入力装置。

【請求項 7】 前記記録モードで記録した画像データに前記選択手段で選択されたカット名を合成することを特徴とする請求項 2 または請求項 3 に記載の画

像入力装置。

【請求項 8】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、
記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する
撮影指示情報とを含む撮影リストを入力するための入力手段と、
前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、
前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、
前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段
を備え、

前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、前記撮影リストの対応
する撮影指示情報の内容を報知することを特徴とする画像入力装置。

【請求項 9】 前記撮影指示情報の内容は、撮影の手順であることを特徴と
する請求項 8 に記載の画像入力装置。

【請求項 10】 前記撮影指示情報の内容は、撮影と同時もしくは撮影後の
作業の指示であることを特徴とする請求項 8 に記載の画像入力装置。

【請求項 11】 前記撮影指示情報はテキスト文書からなり、当該撮影指示
情報の内容は、前記表示手段に表示されることを特徴とする請求項 8 ～ 10 のい
ずれか 1 つに記載の画像入力装置。

【請求項 12】 前記撮影指示情報は図面からなり、当該撮影指示情報の内
容は、前記表示手段に表示されることを特徴とする請求項 8 ～ 10 のいずれか 1
つに記載の画像入力装置。

【請求項 13】 前記撮影指示情報は音声からなり、当該撮影指示情報の内
容は、音声出力手段で再生されることを特徴とする請求項 8 ～ 10 のいずれか 1
つに記載の画像入力装置。

【請求項 14】 前記撮影指示情報は動画からなり、当該撮影指示情報の内
容は、前記表示手段に再生されることを特徴とする請求項 8 ～ 10 のいずれか 1
つに記載の画像入力装置。

【請求項 15】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、

記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する記録後の指示とを含む撮影リストを入力するための入力手段と、

前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、

前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、

前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段を備え、

前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、当該記録モードで記録した記録データを、前記撮影リストの前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示に従って処理することを特徴とする画像入力装置。

【請求項 1 6】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がメール添付送信の場合には、前記記録モードで記録した記録データをメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 1 7】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がサムネール添付送信の場合には、前記記録モードで記録した画像データに対応するサムネール画像をメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 1 8】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が画像データの変倍メール添付送信の場合には、前記記録モードで記録した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 1 9】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、

前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がホームページアップロードの場合には、前記記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換して、前記通信手段を介して指定されるホームページにアップロードす

ることを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 0】 さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、
前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がホームページアップロードおよび当該ホームページの URL アドレスの通知の場合には、前記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換し、前記通信手段を介して指定されるホームページにアップロードするとともに、アップロード先のホームページの URL アドレスを前記通信手段を介して指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 1】 さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、
前記選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報のファイルを前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルと関連づけて格納することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 2】 さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、
前記選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報のファイルを前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルと関連づけて格納することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 3】 さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、
前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報を、前記記録モードで記録した画像データと合成することを特徴とする請求項 1 5 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 4】 前記メモ情報は、テキスト文字であることを特徴とする請求項 2 3 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 5】 前記メモ情報は、手書き文字であることを特徴とする請求項 2 3 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 6】 さらに、音声を入力する音声入力手段を備え、

前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後の音声入力である場合には、前記記録モードでの記録後に、音声入力モードに移行し、前記音声入力手段から入力される音声のファイルを前記記録モードで記録した画像データの記録ファイルと関連づけて格納することを特徴とする請求項 9 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 7】 被写体像を結像するための光学系と、

結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、

少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、

前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、

前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、

前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、

前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、リリースキーの操作に応じて、被写体の画像の記録を行う記録制御手段と、

前記撮影リストの進捗を管理する撮影リスト進捗管理手段と、

外部とデータ通信するための通信手段と、

を備えたことを特徴とする画像入力装置。

【請求項 2 8】 前記撮影リスト進捗管理手段は、前記撮影リスト内のカット名の全ての撮影が終了した場合に、撮影リストの撮影が終了した旨を前記通信手段を介して、指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 2 7 に記載の画像入力装置。

【請求項 2 9】 前記撮影リスト進捗管理手段は、前記撮影リストのカット名の撮影が所定のポイントまで終了した場合にその旨を、前記通信手段を介して、指定される送信先に送信することを特徴とする請求項 2 7 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 0】 前記撮影リスト進捗管理手段は、前記撮影リストに含まれる自動報告指示に応じて、撮影リストの進捗を管理することを特徴とする請求項

27～請求項29のいずれか1つに記載の画像入力装置。

【請求項31】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、
少なくとも、記録すべき被記録対象の1または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、
前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、
前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、
前記表示手段に表示されたカット名の中から1のカット名を選択する選択手段と、

前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データの記録を行い、記録ファイルとして記録する記録制御手段と、

前記撮影リスト毎に、前記記録ファイルをグループ化するグループ化手段と、
を備えたことを特徴とする画像入力装置。

【請求項32】 前記グループ化手段は、さらに、前記カット名毎に前記記録ファイルをグループ化することを特徴とする請求項31に記載の画像入力装置。

【請求項33】 前記グループ化手段は、さらに、前記記録ファイルの種類別に前記記録ファイルをグループ化することを特徴とする請求項31に記載の画像入力装置。

【請求項34】 前記グループ化手段は、前記撮影リスト内にグループ化の指示がある場合に、前記記録ファイルのグループ化を行うことを特徴とする請求項31～請求項33のいずれか1つに記載の画像入力装置。

【請求項35】 前記グループ化手段は、前記記録ファイルを同一のフォルダに登録してグループ化することを特徴とする請求項31～請求項34のいずれか1つに記載の画像入力装置。

【請求項36】 被写体像を結像するための光学系と、
結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、

少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、

前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、

前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、

前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、

前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行う撮影制御手段と、

を備え、

前記撮影リスト内に複数画像の合成の指示がある場合には、前記撮影した複数の画像を合成することを特徴とする画像入力装置。

【請求項 3 7】 被写体像を結像するための光学系と、

結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、

少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、

前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、

前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、

前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、

前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行う撮影制御手段と、

を備え、

前記撮影リスト内に複数画像の補正指示がある場合に、当該補正指示に従って前記撮影した複数の画像を補正することを特徴とする画像入力装置。

【請求項 3 8】 前記複数画像の補正指示は、色補正指示であることを特徴とする請求項 3 7 に記載の画像入力装置。

【請求項 3 9】 前記複数画像の補正指示は、レンズの歪み補正指示であることを特徴とする請求項 3 7 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 0】 被写体像を結像するための光学系と、

結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、

少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する撮影条件指示および／または撮影後の処理条件指示を含む撮影リストを入力するための入力手段と、

前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、

前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、

前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、

前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行う撮影制御手段と、

を備え、

前記記録モードでは、前記選択手段で選択されたカット名に対応する撮影条件指示に従って撮影を実行し、かつ／または、前記記録モードで撮影した画像を前記選択手段で選択されたカット名に対応する撮影後の処理条件指示に従って処理することを特徴とする画像入力装置。

【請求項 4 1】 前記撮影条件指示には、日付を撮影した画像に合成する指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 2】 前記撮影条件指示には、画像スタンプを撮影した画像に合成する指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 3】 前記撮影条件指示には、撮影する場合の解像度の指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 4】 前記撮影条件指示には、カット枚数の指示が含まれることを特徴とする請求項 2 9 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 5】 前記撮影条件指示には、露出条件の指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 6】 前記撮影条件指示には、シャッタースピードの指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 7】 前記撮影条件指示には、ストロボの ON / OFF の指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載のデジタルカメラ。

【請求項 4 8】 前記撮影条件指示には、撮影する画像の縦横サイズの指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 4 9】 前記撮影条件指示には、撮影する画像のアスペクト比の指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 5 0】 前記撮影条件指示には、文字撮影モードでの撮影の指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 5 1】 前記撮影条件指示には、動画撮影モードでの撮影の指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 5 2】 前記撮影条件指示には、音声を同時に記録する指示が含まれることを特徴とする請求項 4 0 に記載の画像入力装置。

【請求項 5 3】 前記撮影リストは、外部から転送されてきて、前記入力手段を介して入力されることを特徴とする請求項 5 1 ～請求項 5 2 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置。

【請求項 5 4】 請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置を適用したことを特徴とするデジタルカメラ。

【請求項 5 5】 請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置を適用したことを特徴とする携帯情報入力装置。

【請求項 5 6】 少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを作成する撮影リスト作成手段と、

前記撮影リスト作成手段で作成された撮影リストを画像入力装置に転送するための通信手段と、

を備えたことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 5 7】 請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置と、請求項 5 6 に記載の情報処理装置とで構築されることを特徴とする画像入力システム。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置

、および画像入力システムに関し、詳細には、撮影リストを使用する画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置、および画像入力システムに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

デジタルカメラの原型は、電子スチルカメラであり、実用的には 1 9 8 1 年頃発売されたソニーのマビカから始まっている。その後、撮像デバイス C C D の高詳細化・低価格化、記録媒体カードメモリの大容量化・小型化、および静止画像圧縮符号方式である J P E G の半導体チップの出現などに伴い、現在のデジタルカメラは、小型化・低価格・高性能化が進んできている。

【 0 0 0 3 】

また、携帯電話の急激な普及やノートパーソナルコンピュータの小型化、シャープのザウルスに代表される P D A の普及によって、移動中に機器を使用する環境が整ってきた中で、画像入力手段として普及してきたデジタルカメラが、パソコンやネットワークに結合し、画像だけでなく、音声・動画などのあらゆるイメージ情報のキャプチャとして、マルチメディアシステムの重要な要素になってきている。

【 0 0 0 4 】

また、デジタルカメラは、上述のキャプチャのみならず、近時研究が活発化してきている身につけるコンピュータ（ウェアラブル・コンピュータ）の候補としても、携帯電話・P D A ・パットフォームパーソナルコンピュータとともに期待されている。さらに、デジタルカメラは、インターネットとの接続機能、個人情報の管理機能や、プレゼン機能等のより高機能なものへの対応が望まれている。

【 0 0 0 5 】

例えば、特開平 1 0 - 3 4 1 3 9 6 号公報の「デジタルカメラの機能的付加方法」では、外部記録媒体に記録されているプログラムを受け取りデジタルカメラの記憶媒体に記録する第 1 のプロセスと、所望の時期に前記プログラムを前記カメラの記録媒体から読み出して実行する第 2 のプロセスとを有することにより、所望する機能を追加するために、外部からプログラムを導入可能とした技術が開

示されている。

【 0 0 0 6 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、特開平 1 0 - 3 4 1 3 9 6 号公報の「デジタルカメラの機能的付加方法」では、必要な被写体の取り忘れや作業漏れを防止できないという問題がある。

【 0 0 0 7 】

本発明は、上記に鑑みてなされたものであり、必要な被写体の取り忘れや作業漏れを防止可能な画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置、および画像入力システムを提供することを目的とする。

【 0 0 0 8 】

【課題を解決するための手段】

上記課題を達成するために、請求項 1 に係る発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、

少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、を備えたものである。

【 0 0 0 9 】

また、請求項 2 に係る発明は、請求項 1 に係る発明において、さらに、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段を備え、

前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行するものである。

【 0 0 1 0 】

また、請求項 3 に係る発明は、請求項 2 に係る発明において、前記記録モードでは、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データが記録されるものである。

【 0 0 1 1 】

また、請求項 4 に係る発明は、請求項 2 または 3 に係る発明において、前記記

録モードで記録した記録データの記録ファイルのパラメータ内に前記選択手段で選択されたカット名を付加するものである。

【 0 0 1 2 】

また、請求項 5 に係る発明は、請求項 2 または 3 に係る発明において、前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルを、前記選択手段で選択されたカット名に関連づけて記憶するものである。

【 0 0 1 3 】

また、請求項 6 に係る発明は、請求項 2 または請求項 3 に係る発明において、前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルのファイル名を、少なくとも一部に前記選択手段で選択されたカット名を含むようにしたものである。

【 0 0 1 4 】

また、請求項 7 にかかる発明は、請求項 2 または請求項 3 に係る発明において、記記録モードで記録した画像データに前記選択手段で選択されたカット名を合成するものである。

また、請求項 8 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する撮影指示情報とを含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段を備え、前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、前記撮影リストの対応する撮影指示情報の内容を報知するものである。

【 0 0 1 5 】

また、請求項 9 に係る発明は、請求項 8 にかかる発明において、前記撮影指示情報の内容は、撮影の手順であることとした。

【 0 0 1 6 】

また、請求項 1 0 にかかる発明は、請求項 8 にかかる発明において、前記撮影指示情報の内容は、撮影と同時もしくは撮影後の作業の指示であることとした。

【 0 0 1 7 】

また、請求項 1 1 にかかる発明は、請求項 8 ～ 1 0 のいずれか 1 つの発明において、撮影指示情報はテキスト文書からなり、当該撮影指示情報の内容は、前記表示手段に表示されることとした。

【 0 0 1 8 】

また、請求項 1 2 にかかる発明は、前記撮影指示情報は図面からなり、当該撮影指示情報の内容は、前記表示手段に表示されることとした。

【 0 0 1 9 】

また、請求項 1 3 に係る発明は、請求項 8 ～ 1 0 の発明において、前記撮影指示情報は音声からなり、当該撮影指示情報の内容は、音声出力手段で再生されることとした。

【 0 0 2 0 】

また、請求項 1 4 にかかる発明は、前記撮影指示情報は動画からなり、当該撮影指示情報の内容は、前記表示手段に再生されることとした。

【 0 0 2 1 】

また、請求項 1 5 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する記録後の指示とを含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段を備え、前記選択手段により 1 のカット名が選択された場合に、記録モードに移行し、該記録モードで記録した記録データを、前記撮影リストの前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示に従って処理することとした。

【 0 0 2 2 】

また、請求項 1 6 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がメール添付送信の場合には、前記記録モードで記録した記録データをメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信することとした。

【 0 0 2 3 】

また、請求項 1 7 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がサムネール添付送信の場合には、前記記録モードで記録した画像データに対応するサムネイル画像をメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信することとした。

【 0 0 2 4 】

また、請求項 1 8 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が画像データの変倍メール添付送信の場合には、前記記録モードで記録した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、前記通信手段を介して指定される送信先に送信することとした。

【 0 0 2 5 】

また、請求項 1 9 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がホームページアップロードの場合には、前記記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換して、前記通信手段を介して指定されるホームページにアップロードすることとした。

【 0 0 2 6 】

また、請求項 2 0 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、外部とデータ通信するための通信手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示がホームページアップロードおよび当該ホームページの URL アドレスの通知の場合には、前記記録モードで記録した画像データを HTML ファイルに変換し、前記通信手段を介して指定されるホームページにアップロードするととともに、アップロード先のホームページの URL アドレスを前記通信手段を介して指定される送信先に送信することとした。

【 0 0 2 7 】

また、請求項 2 1 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、前記選択されたカット名に対

応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報のファイルを前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルと関連づけて格納することとした。

【 0 0 2 8 】

また、請求項 2 2 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、前記選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報のファイルを前記記録モードで記録した記録データの記録ファイルと関連づけて格納することとした。

【 0 0 2 9 】

また、請求項 2 3 にかかる発明は、請求項 1 5 にかかる発明において、さらに、メモ情報を入力するためのメモ入力手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後のメモ情報の入力指示である場合には、前記記録モードでの記録後に、メモ入力モードに移行し、前記メモ入力手段から入力されるメモ情報を、前記記録モードで記録した画像データと合成することとした。

【 0 0 3 0 】

また、請求項 2 4 にかかる発明は、請求項 2 3 にかかる発明において、前記メモ情報は、テキスト文字であることとした。

【 0 0 3 1 】

また、請求項 2 5 にかかる発明は、請求項 2 3 にかかる発明において、前記メモ情報は、手書き文字であることとした。

【 0 0 3 2 】

また、請求項 2 6 にかかる発明は、請求項 9 にかかる発明において、さらに、音声を入力する音声入力手段を備え、前記選択手段で選択されたカット名に対応する記録後の指示が記録後の音声入力である場合には、前記記録モードでの記録後に、音声入力モードに移行し、前記音声入力手段から入力される音声のファイ

ルを前記記録モードで記録した画像データの記録ファイルと関連づけて格納することとした。

【 0 0 3 3 】

また、請求項 2 7 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、リリースキーの操作に応じて、被写体の画像の記録を行う記録制御手段と、前記撮影リストの進捗を管理する撮影リスト進捗管理手段と、外部とデータ通信するための通信手段と、を備えたこととした。

【 0 0 3 4 】

また、請求項 2 8 にかかる発明は、請求項 2 7 にかかる発明において、前記撮影リスト進捗管理手段は、前記撮影リスト内のカット名の全ての撮影が終了した場合に、撮影リストの撮影が終了した旨を前記通信手段を介して、指定される指定される送信先に送信することとした。

【 0 0 3 5 】

また、請求項 2 9 にかかる発明は、請求項 2 7 にかかる発明において、前記撮影リスト進捗管理手段は、前記撮影リストのカット名の撮影が所定のポイントまで終了した場合にその旨を、前記通信手段を介して、指定される送信先に送信することを特徴とすることとした。

【 0 0 3 6 】

また、請求項 3 0 にかかる発明は、請求項 2 7 ～請求項 2 9 のいずれか 1 つ発明において、前記撮影リスト進捗管理手段は、前記撮影リストに含まれる自動報告指示に応じて、撮影リストの進捗を管理することとした。

【 0 0 3 7 】

また、請求項 3 1 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像

された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき被記録対象の1または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から1のカット名を選択する選択手段と、前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の静止画像、二値画像、および動画像、ならびに音声のうちのいずれかの記録データの記録を行い、記録ファイルとして記録する記録制御手段と、前記撮影リスト毎に、前記記録ファイルをグループ化するグループ化手段と、を備えたこととした。

【 0 0 3 8 】

また、請求項32にかかる発明は、請求項31にかかる発明において、前記グループ化手段は、さらに、前記カット名毎に前記記録ファイルをグループ化することとした。

【 0 0 3 9 】

また、請求項33にかかる発明は、請求項31にかかる発明において、前記グループ化手段は、さらに、前記記録ファイルの種類別に前記記録ファイルをグループ化することとした。

【 0 0 4 0 】

また、請求項34にかかる発明は、請求項31～請求項33のいずれか1つの発明において、前記グループ化手段は、前記撮影リスト内にグループ化の指示がある場合に、前記記録ファイルのグループ化を行うこととした。

【 0 0 4 1 】

また、請求項35にかかる発明は、請求項31～請求項34のいずれか1つに記載の発明において、前記グループ化手段は、前記記録ファイルを同一のフォルダに登録してグループ化することとした。

【 0 0 4 2 】

また、請求項36にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき被

記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行う撮影制御手段と、を備え、前記撮影リスト内に複数画像の合成の指示がある場合には、前記撮影した複数の画像を合成することとした。

【 0 0 4 3 】

また、請求項 3 7 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から 1 のカット名を選択する選択手段と、前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行う撮影制御手段と、を備え、前記撮影リスト内に複数画像の補正指示がある場合に、当該補正指示に従って前記撮影した複数の画像を補正することとした。

【 0 0 4 4 】

また、請求項 3 8 にかかる発明は、請求項 3 7 にかかる発明において、前記複数画像の補正指示は、色補正指示であることとした。

【 0 0 4 5 】

また、請求項 3 9 にかかる発明は、請求項 3 7 にかかる発明において、前記複数画像の補正指示は、レンズの歪み補正指示であることとした。

【 0 0 4 6 】

また、請求項 4 0 にかかる発明は、被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名と、当該カット名に対応する撮影条件指示および／または撮影後の処理条件指示を含む撮影リストを入力するための入力手段

と、前記入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、前記撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、前記表示手段に表示されたカット名の中から1のカット名を選択する選択手段と、前記選択手段によりカット名が選択された場合に、記録モードに移行して、所定キーの操作に応じて、被写体の画像の撮影を行う撮影制御手段と、を備え、前記記録モードでは、前記選択手段で選択されたカット名に対応する撮影条件指示に従って撮影を実行し、かつ／または、前記記録モードで撮影した画像を前記選択手段で選択されたカット名に対応する撮影後の処理条件指示に従って処理することとした。

【 0 0 4 7 】

また、請求項41にかかる発明は、請求項40にかかる発明において、前記撮影条件指示には、日付を撮影した画像に合成する指示が含まれることとした。

【 0 0 4 8 】

また、請求項42にかかる発明は、請求項40にかかる発明において、前記撮影条件指示には、画像スタンプを撮影した画像に合成する指示が含まれることとした。

【 0 0 4 9 】

また、請求項43にかかる発明は、請求項40にかかる発明において、前記撮影条件指示には、撮影する場合の解像度の指示が含まれることとした。

【 0 0 5 0 】

また、請求項44にかかる発明は、請求項29にかかる発明において、前記撮影条件指示には、カット枚数の指示が含まれることとした。

【 0 0 5 1 】

また、請求項45にかかる発明は、請求項40にかかる発明において、前記撮影条件指示には、露出条件の指示が含まれることとした。

【 0 0 5 2 】

また、請求項46にかかる発明は、請求項40にかかる発明において、前記撮影条件指示には、シャッタースピードの指示が含まれることとした。

【 0 0 5 3 】

また、請求項47にかかる発明は、請求項405にかかる発明において、前記

撮影条件指示には、ストロボのON/OFFの指示が含まれることとした。

【 0 0 5 4 】

また、請求項 4 8 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、撮影する画像の縦横サイズの指示が含まれることとした。

【 0 0 5 5 】

また、請求項 4 9 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、撮影する画像のアスペクト比の指示が含まれることとした。

【 0 0 5 6 】

また、請求項 5 0 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、文字撮影モードでの撮影の指示が含まれることとした。

【 0 0 5 7 】

また、請求項 5 1 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、動画撮影モードでの撮影の指示が含まれることとした。

【 0 0 5 8 】

また、請求項 5 2 にかかる発明は、請求項 4 0 にかかる発明において、前記撮影条件指示には、音声を同時に記録する指示が含まれることとした。

【 0 0 5 9 】

また、請求項 5 3 にかかる発明は、前記撮影リストは、外部から転送されてきて、前記入力手段を介して入力されることを特徴とする請求項 5 1 ～請求項 5 2 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置。

【 0 0 6 0 】

また、請求項 5 4 にかかる発明は、請求項 5 3 にかかる発明において、請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置を適用したこととした。

【 0 0 6 1 】

また、請求項 5 5 にかかる発明は、請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置を適用したこととした。

【 0 0 6 2 】

また、請求項 5 6 にかかる発明は、少なくとも、記録すべき被記録対象の 1 または複数のカット名を含む撮影リストを作成する撮影リスト作成手段と、前記撮

影リスト作成手段で作成された撮影リストを画像入力装置に転送するための通信手段と、を備えたこととした。

【 0 0 6 3 】

また、請求項 5 7 にかかる発明は、請求項 1 ～請求項 5 3 のいずれか 1 つに記載の画像入力装置と、請求項 5 6 に記載の情報処理装置とで構築されることこととした。

【 0 0 6 4 】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して、本発明に係る画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置、および画像入力システムの好適な実施の形態を詳細に説明する。

【 0 0 6 5 】

以下、[本実施の形態に係るデジタルカメラシステムの構成]、[本実施の形態に係るデジタルカメラの構成]、[本実施の形態に係るパーソナルコンピュータの構成]、[動作例 1] ～ [動作例 2 2] を順に説明する。

【 0 0 6 6 】

[本実施の形態に係るデジタルカメラシステムの構成]

図 1 は、本発明にかかるデジタルカメラシステムの概略構成例を示している。同図において、1 0 0 はデジタルカメラを示し、2 0 0 はパーソナルコンピュータ、3 0 0 は W e b サーバーを示す。デジタルカメラ 1 0 0 はパーソナルコンピュータ 2 0 0 に接続され、また、ネットワーク 4 0 0 を介して W e b サーバー 3 0 0 に接続されている。

【 0 0 6 7 】

パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、撮影リストを作成し撮影指示ファイルとしてデジタルカメラ 1 0 0 に転送する。デジタルカメラ 1 0 0 では、撮影指示ファイルを使用して撮影を行う。そして、デジタルカメラ 1 0 0 は、撮影した画像をパーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送したり、W e b サーバー 3 0 0 にアップロードしたりする。また、デジタルカメラ 1 0 0 は、W e b サーバー 3 0 0 のホームページ上の撮影指示ファイルをダウンロードして、撮影リストを使用して撮

影を行う。

【 0 0 6 8 】

上記デジタルカメラシステムの基本動作の概略を説明する。まず、パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、ユーザーが、文書を作成しながら写真の撮影作業の構成（写真の目的、構図、細かな撮影条件、撮影後の作業指示等）を練り、撮影指示ファイルを作成してデジタルカメラに転送する。図 2 は撮影指示ファイルの一例を示す図である。図 2 に示す撮影指示ファイルは、カット N o と、カット名と、撮影指示の内容からなる。そして、デジタルカメラ 1 0 0 では、ユーザが、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてきた撮影指示ファイルの撮影指示を見ながら撮影を行い、撮影した画像をパーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する。パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、デジタルカメラ 1 0 0 から転送されてくる画像を選択して文書に貼り付け等を行う。なお、撮影指示ファイルの撮影指示は、図 2 に示したような、操作者に指示を与えるためのテキスト文書や指示図面等の場合もあるが、撮影指示に従った処理をデジタルカメラで自動的に実行させるための操作コマンドの場合もある。

【 0 0 6 9 】

図 3 は、図 1 のデジタルカメラ 1 0 0 の構成を示すブロック図である。同図において、1 0 0 は、デジタルカメラを示している。デジタルカメラ 1 0 0 は、同図に示す如く、デジタルカメラの全体の制御を行うシステム制御部 1 0 1 と、被写体を撮像して画像データを出力するカメラ部 1 0 2 と、カメラ部 1 0 2 から出力される画像データに対して画像処理等を行う画像データ記録・再生部 1 0 3 と、画像データ等の表示を行う表示部 1 0 4 と、音声データの記録・再生を行うための音声データ記録・再生部 1 0 5 と、ユーザがデジタルカメラに動作指示を与えるための操作部 1 0 6 およびタッチパネル操作部 1 0 7 と、画像データ等の各種データが格納される記録部 1 0 8 と、パーソナルコンピュータ／I F 部 1 0 9 と、カードスロット部 1 1 0 と、電源部 1 1 1 とを備えている。

【 0 0 7 0 】

上記システム制御部 1 0 1 は、上述したように、デジタルカメラの全体を制御するユニットであり、FLASH_ROM 1 1 3 に格納されたプログラムに従っ

て、SD-RAM113をワークエリアとして使用してデジタルカメラの各種の制御を行うCPU111と、制御プログラムやフォント、アイコン等が記録されたFLASH-ROM113と、CPU112のワークエリアとして使用されるSD-RAM114とを備えている。また、システム制御部101は、AE・AF・AWB処理、画像編集／合成処理（レタッチ・上書き文字等の処理）、撮影リスト処理（リスト作成／フォルダ管理）、暗号化／電子すかし処理等の制御やメモリ制御を行う。

【0071】

上記カメラ部102は、上述したように被写体を撮像して画像データを出力するためのものであり、被写体像を結像するためのレンズ（ズームレンズ、フォーカスレンズ）、シャッター、およびアイリスや、レンズ（ズームレンズ、フォーカスレンズ）、シャッター、およびアイリス等を駆動するためのモータと、モータを駆動するためのモータドライバ、結像された被写体像を電気信号（アナログの画像データ）に変換するCCD、該CCDを駆動するためのCCD駆動回路、CCDから出力される画像データの低雑音化のためのCDS回路、CCDから出力されるアナログの画像データをデジタル信号（デジタル画像データ）に変換するA/D変換器等を備える。

【0072】

画像データ記録・再生部103は、IPP115とフレームメモリ116からなり、カメラ部102のCCD駆動回路を制御してCCD駆動タイミングやレンズ駆動モータを制御してフォーカシングや露出調整、画像信号の圧縮伸長、画像信号を表示部104のLCDに表示するための信号処理を行い、また、ユーザインターフェースのための種々のグラフィック画像を生成し、表示部104のLCDに表示するためのものである。表示部104は、LCDを備え、画像を表示し、また、ユーザインターフェースのためのグラフィックを表示するためのものである。

【0073】

上記記録部108には、画像データ、サムネイル画像データ、メールデータ、手書きデータ、音声データや、その他のデータが記録される。パーソナルコンピ

ユータ／I F 部 1 0 9 は、R S 2 3 2 C や U S B 等で外部装置（例えば、パソコン）とデータ通信するためのインターフェースである。カードスロット部 1 1 0 は、パーソナルコンピュータ M C I A 規格に準拠したパーソナルコンピュータカードを差し込むためのアダプターである。パーソナルコンピュータカードとしては、無線若しくは有線でデータ通信を行うためのデータ通信カード等がカードスロット部に差し込まれる。

【 0 0 7 4 】

操作部 1 0 6 は、ユーザがデジタルカメラに動作指示を与えるためのものであり、操作ボタン（リリースキー等）やモードダイヤルと、操作ボタン（レリーズキー等）やモードダイヤルの状態を検出してシステム制御部 1 0 1 に通知するキー制御部等を備えている。

【 0 0 7 5 】

タッチパネル操作部 1 0 7 は、表示部 1 0 4 の L C D に貼り付けられたタッチパネル操作部と、タッチパネル操作部からの入力を C P U 1 1 2 に通知するパネル制御部とを備えている。

【 0 0 7 6 】

音声データ記録・再生部 1 0 5 は、マイク、アンプ、A / D 変換器、D / A 変換器等を備えており、マイクを介して入力される音声を A / D 変換して音声データとしてシステム制御部 1 0 1 に出力し、また、システム制御部 1 0 1 から入力される音声データを D / A 変換して、スピーカーから出力する。

【 0 0 7 7 】

上述のデジタルカメラ 1 0 0 は、静止画撮影、動画撮影、音声記録、二値画像記録が可能となっており、さらに、Eメールの送受信機能、W e b ブラウジング機能、自動 H T M L 作成機能等を備えている。

【 0 0 7 8 】

図 4 は、図 1 のパーソナルコンピュータ 2 0 0 を示しており、パーソナルコンピュータ 2 0 0 は、操作指示を与える入力部 2 0 1 と、表示部 2 0 2 と、装置全体の制御を司る C P U 2 0 3 と、外部装置とデータ通信をおこなう通信部 2 0 4 と、記録媒体 2 0 6 のデータのリード／ライトを行う記録媒体ドライブ装置 2 0

5と、CPU203を動作させるプログラム等を格納した記録媒体206と、及びCPU203のワークエリアとして使用されるRAM207と、を備えている。各部は、バスを介して互いに接続されている。

【0079】

上記入力部201は、カーソルキー、数字入力キー及び各種機能キー等を備えたキーボード、マウス、並びに画像を読みとるスキャナ等からなる。この入力部201は、必ずしもパーソナルコンピュータ200にローカルに接続される必要はなく、PHS・リモートターミナル（例えば、Personal Digital Assistant）等のリモート装置や、当該パーソナルコンピュータ200と双方向でデータ通信が可能な装置等を入力手段として使用しても良い。また、入力部201は、CPU203に操作コマンドを与えて動作させるためのユーザーインターフェースである。なお、入力部201としては、上記したものに限られるものではなく、タッチパネル操作部、トラックボールや音声認識機構等を用いても良い。

【0080】

上記表示部202は、CRT (Cathod Ray Tube) LCD (Liquid Crystal Display) や、プラズマディスプレイ等により構成され、CPU203から入力される表示データに応じた表示が行われる。

【0081】

上記CPU203は、例えば、32ビットマイクロプロセッサ、他のマイクロプロセッサ、DSP (Digital Signal Processor) や、プログラマブルロジック等からなる。また、CPU203は、必ずしもシングルプロセッサである必要はなく、分散処理をするタイプのものでも良い。このCPU203は、記録媒体206に格納されているプログラムに従って、装置全体を制御する中央制御ユニットであり、このCPU203は、入力部201、表示部202、通信部204、記録媒体アクセス制御装置205、及びRAM208が接続されており、データ通信、メモリへのアクセスによるアプリケーションプログラムの読み出しや各種データのリード／ライト、データ／コマンド入力、カラー表示等を制御する。

【0082】

上記通信部204は、電話回線、ISDN (Integrated Services Digital

Network)、LAN (Local Area Network) や、WAN (Wide Area Network) 等に接続され、内蔵したモデム (図示せず) を経て電話回線を介してデータ通信を行う。また、通信部 2 0 4 は、RS 2 3 2 C インターフェースや Ir D A インターフェースを備えており、デジタルカメラ等の外部機器と前述の RS 2 3 2 C インターフェースを介してケーブル (有線) によるデータ通信や前述の Ir D A インターフェースを介して赤外線 (無線) によるデータ通信を行う。

【0 0 8 3】

上記記録媒体 2 0 6 は、CPU 2 0 3 が実行可能な OS プログラム (例えば、WINDOWS) やアプリケーションプログラム等の各種プログラムやデータを格納する。アプリケーションプログラムとしては、例えば、上述したデジタルカメラの撮影リスト等の作成を行うためのデジタルカメラ用プログラム等がある。また、記録媒体には、デジタルカメラの機種毎の使用可能な機能が登録された機種テーブルが記憶されている。具体的には、この機種テーブルには、機種コードに対応させて各機種が使用可能な機能が登録されている。上述の記録媒体は、例えば、フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM、DVD-ROM、MO やパーソナルコンピュータカード等の光学的・磁氣的・電氣的な記録媒体から成る。上記各種プログラムは、CPU 2 0 3 が直接又は間接に解釈可能なオブジェクトコードやソースコード等の形態で記録媒体 2 0 6 に格納されている。記録媒体 2 0 6 に格納されたプログラムはネットワークを介して配信可能である。

【0 0 8 4】

上記 RAM 2 0 9 は、指定されたプログラム、入力指示、入力データ及び処理結果等を格納するワークメモリと、表示部 1 2 の表示画面に表示する表示データを一時的に格納する表示メモリとを備えている。

【0 0 8 5】

パーソナルコンピュータ 2 0 0 では、記録媒体 2 0 6 に格納されているデジタルカメラ用プログラムを起動して、操作者が撮影指示リストを作成し、作成した撮影リストをデジタルカメラ 1 0 0 に転送する。

【0 0 8 6】

つぎに、デジタルカメラ 1 0 0 が、パーソナルコンピュータ 2 0 0 等から転送

される撮影リストを使用して撮影する場合の動作例 1 ～動作例 2 2 を説明する。

【 0 0 8 7 】

〔動作例 1〕

動作例 1 を図 5 ～図 7 を参照して説明する。図 5 は動作例 1 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャート、図 6 は撮影リストファイルの一例を示す図、図 7 は表示部の表示例を示す。動作例 1 では、撮影リストのカット名の一覧を表示し、表示されたカット名の一覧の中からカット名が選択されると記録モードに移行し、リリースキーが押下されると撮影を行い、撮影した画像データの画像ファイルに選択されたカット名を付加させる場合の動作を説明する。

【 0 0 8 8 】

図 5 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1）。図 6 は、撮影リストの一例を示している。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が記載されている。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 3）。図 7 の（A）は、表示部に表示される撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 5）。図 7（B）は、図 7（A）で、撮影リスト” ビジネスショー 9 8 ” が選択された場合の撮影リス” ビジネスショー 9 8 ” のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【 0 0 8 9 】

システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否

かを判断する（ステップ S 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに移行し、撮影可能状態とする（ステップ S 7）。ここで、操作者はカット名に対応する被写体を選択し、撮影を行うことになる。

【 0 0 9 0 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 のリリースキーが押下されると、被写体を撮影する（ステップ S 8）。撮影後、“カット名を撮影した画像の E X I F ファイル（画像ファイル）内に記録するか否か”の選択を促すメッセージを表示部に表示する。そして、操作者のタッチパネル操作部の操作で、“カット名を撮影した画像の E X I F ファイル（画像ファイル）内に記録する”が選択された場合には、システム制御部 1 0 1 は、カット名を E X I F ファイル（画像ファイル）のヘッダー（パラメータ）内にカット名を付加し（ステップ S 9）、撮影した画像データを記録部 1 0 8 に E X I F ファイル（画像ファイル）として格納する（ステップ S 1 0）。

【 0 0 9 1 】

他方、ステップ S 9 で、“カット名を撮影した画像の E X I F ファイル内に記録しない”が選択された場合には、システム制御部 1 0 1 は、カット名を E X I F ファイルのパラメータ（ヘッダー）内に付加しないで、記録部 1 0 8 に撮影した画像データを E X I F ファイル（画像ファイル）として格納する（ステップ S 1 1）。

【 0 0 9 2 】

以上説明したように、上記動作例 1 によれば、撮影リストのカット名の一覧を表示し、表示されたカット名の一覧の中からカット名が選択されると記録モード（撮影モード）に移行し、リリースキーが押下されると撮影を行い、撮影した画像データの画像ファイルのパラメータ内に選択されたカット名を付加することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、どの画像がどのカット名に対応するかを間違えることを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 0 9 3 】

〔動作例 2〕

動作例 1 を図 8 を参照して説明する。図 8 は動作例 2 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 2 では、撮影指示ファイルのカット名の一覧を表示し、表示されたカット名の一覧の中からカット名が選択された後、記録（静止画撮影、動画撮影、音声記録、二値画像記録）されたデータ（静止画、動画、音声、二値画像）のファイルを、選択されたカット名に関連づけて記憶する場合の動作例を説明する。

【 0 0 9 4 】

図 8 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 2 1）。図 6 は撮影リストのフォーマットの一例である。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が記載されている。

【 0 0 9 5 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 2 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに移行し、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 2 3）。図 7 の（A）は、撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断し（ステップ S 2 4）、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 2 5）。図 7（B）は、図 7（A）で、撮影リスト”ビジネスショー 9 8”が選択された場合の撮影リス”ビジネスショー 9 8”のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【 0 0 9 6 】

システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると記録モード（撮影モード）に移行し、記録可能状態とする（ステップ S 2

7)。そして、操作者の操作部106の操作で記録が指示されると(ステップS28)、システム制御部101は、関連ファイルの作成を行うか否かの選択を促すメッセージを表示部に表示する。そして、システム制御部101は、操作者のタッチパネル操作部の操作で、“関連ファイルの作成を行う”が選択されたか否かを判断する(ステップS29)。“関連ファイルの作成を行う”が選択された場合には、システム制御部101は、記録指示が静止画の記録である場合には(ステップS30)、静止画撮影を行い(ステップS34)、動画の記録である場合には(ステップS31)、動画撮影を行い(ステップS35)、音声の記録である場合には(ステップS32)、音声記録処理を行い(ステップS36)、二値画である場合には(ステップS33)、二値画像を記録し(ステップ37)、ステップS38に移行する。

【0097】

さて、ステップS38では、関連ファイル保存処理を実行し、取り込んだ記録データをEXIFファイルとして記録部108に格納すると共に、取り込んだ記録データのファイルを撮影リストに、選択されたカット名に関連させて登録する。他方、ステップS30で、関連ファイルを作成しないが選択された場合には、記録指示に従って記録を行い取り込んだ記録データをEXIFファイルとして格納する(ステップS39)。

【0098】

図9は、図6の撮影リスト(未撮影)で撮影した場合の撮影リストのフォーマットの一例を示す。同図に示すように、カット名が選択された後に記録された記録データの記録ファイルがカット名の下に登録される。

【0099】

以上説明したように、動作例2によれば、撮影リストのカット名が選択された後に、記録した記録データの記録ファイルを選択されたカット名に関連づけて撮影リストに登録することとしたので、使用者は、撮影の段階では、撮影リストを使用して、必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、どの画像がどのカット名に対応するかを間違えることを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 0 0 】

〔動作例 3〕

動作例 3 を図 1 0 を参照して説明する。図 1 0 は、動作例 3 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 3 では、撮影リストのカット名が選択された後に、撮影した画像データの画像ファイルのファイル名が選択されたカット名を含むようにファイル名を作成する場合の動作を説明する。

【 0 1 0 1 】

まず、図 1 0 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 4 1）。図 6 は、撮影リストの一例を示している。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれている。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 4 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 4 3）。図 7 の（A）は、撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 4 4）。そして、撮影リストが選択されると、システム制御部 1 0 1 は、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 4 5）。図 7（B）は、図 7（A）で、撮影リスト”ビジネスショー 9 8”が選択された場合の撮影リスト”ビジネスショー 9 8”のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【 0 1 0 2 】

システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 4 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに移行し、撮影可能状態とする（ステップ S 4 7）。これによ

り、使用者はカット名の被写体の取り忘れを防止できる。そして、操作部 1 0 6 のリリースキーの操作に応じて撮影を行う（ステップ S 4 8）。

【 0 1 0 3 】

撮影後、システム制御部 1 0 1 は、ファイル名をカット名にするか否かの選択を促すメッセージを表示部に表示する。そして、操作者のタッチパネル操作部の操作で、“ファイル名をカット名にする”が選択された場合には（ステップ S 4 9）、ステップ S 5 0 に移行し、システム制御部 1 0 1 は、画像が複数あるか否かを判断する。この判断の結果、画像が複数ない場合にはステップ S 5 2 に移行する一方、画像が複数ある場合には、ステップ S 5 1 に移行して、ファイル名を連番処理してステップ S 5 2 に移行する。具体的には、連番処理では、例えば、“写真 1”が 3 枚ある場合には、“写真 1 ～ 1”、“写真 1 ～ 2”、“写真 1 ～ 3”のような処理を行う。

【 0 1 0 4 】

さて、ステップ S 5 2 では、選択したカット名を読み出して画像ファイルのファイル名をカット名を含むファイル名とし（ステップ S 5 2）、撮影した画像ファイルを記録部 1 0 8 に EXIF ファイルとして格納する。

【 0 1 0 5 】

他方、ステップ S 4 4 で、“ファイル名をカット名を含むファイル名にする”が選択されなかった場合には、カット名を含まない通常のファイル名で撮影した画像ファイルを EXIF ファイルとして格納する（ステップ S 5 3）。

【 0 1 0 6 】

ここで、カット名を含むファイル名の具体例を説明する。例えば、カット名“RICOH”が選択され、撮影された画像が 1 枚の場合には、ファイル名を、“RICOH. jpg”とする。また、例えば、カット名“CANON”が選択され、撮影された画像が 3 枚の場合には、各ファイル名は、“CANON 0 1. jpg”、“CANON 0 2. jpg”、“CANON 0 3. jpg”と連番とする。

【 0 1 0 7 】

以上説明したように、上記動作例 3 によれば、撮影リストのカット名の一覧を

を表示部に表示し、表示されたカット名の中からカット名を選択し、その後撮影されて得られる画像データのファイル名の少なくとも一部にカット名を含むようにしたので、使用者は、撮影の段階では、撮影リストを使用して、必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、どの画像がどのカット名に対応するかを間違えることを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 0 8 】

〔動作例 4〕

動作例 4 を図 1 1 および図 1 2 を参照して説明する。図 1 1 は動作例 4 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャート、図 1 2 は画像データに選択されたカット名を合成する場合を説明するための説明図である。動作例 4 では、撮影リストのカット名が選択された後に、撮影した画像データにカット名を合成する場合の動作を説明する。

【 0 1 0 9 】

まず、図 1 1 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 6 1）。図 6 は撮影リストの一例を示している。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれている。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 6 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 6 3）。図 7 の（A）は、表示部の撮影リスト名の一覧表示の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 6 4）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 6 5）。

【 0 1 1 0 】

図 7（B）は、図 7（A）で、撮影リスト”ビジネスショー 9 8”が選択され

た場合の撮影リスト” ビジネスショー 9 8 ” のカット名の表示例を示している。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。

【 0 1 1 1 】

システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 6 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに移行し、撮影可能状態となる（ステップ S 6 7）。これにより、使用者はカット名の被写体の取り忘れを防止できる。そして、操作部 1 0 6 のリリースキーの操作に応じて撮影を行う（ステップ S 6 8）。

【 0 1 1 2 】

撮影後、システム制御部 1 0 1 は、カット名を撮影した画像に合成するか否かの選択を促すメッセージを表示部に表示する。システム制御部 1 0 1 は、操作者の操作部 1 0 6 の操作で” カット名を撮影した画像に合成する” が選択されたか否かを判断する（ステップ S 6 9）。そして、操作者の操作部 1 0 6 の操作で、カット名を撮影した画像に合成するが選択された場合には、システム制御部 1 0 1 は、撮影した画像にカット名を合成し、合成画像の画像ファイルを作成する（ステップ S 7 0）。そして、この画像ファイルを記録部 1 0 8 に E X I F ファイルとして格納する（ステップ S 7 1）。他方、ステップ S 6 9 で、” カット名を撮影した画像に合成する” が選択されなかった場合には、撮影した画像の E X I F ファイルを記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 7 1）。

【 0 1 1 3 】

図 1 2 は撮影した画像にカット名を合成した合成画像を説明するための図である。例えば、カット名として、” R I C O H ” が選択された後、図 1 2 の（A）に示す画像が撮影された場合に、カット名” R I C O H ” を図 1 2 の（A）に示す撮影画像に合成して、図 1 2 の（B）に示すような合成画像を作成する。

【 0 1 1 4 】

以上説明したように、上記動作例 4 によれば、撮影リストを表示部に表示し、表示された撮影リストの中からカット名を選択し、その後撮影されて得られる画像データにカット名を合成することとしたので、使用者は、撮影の段階では撮影

リストを使用して、必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、どの画像がどのカット名に対応するかを間違えることを防止でき、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 1 5 】

〔動作例 5〕

動作例 5 を図 1 3 および図 1 4 を参照して説明する。図 1 3 は動作例 2 0 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 2 0 では、撮影リストのカット名を表示し、そして撮影リスト中のカット名を選択し、選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）の表示を行い、ユーザが表示される撮影方法に従って撮影し、また、表示される撮影後の処理の指示に従って処理を行う場合の動作を説明する。

【 0 1 1 6 】

図 1 3 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 8 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、カット名に対応させて撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）がテキスト文書で登録されている。

【 0 1 1 7 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の JOB NAVI ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 8 2）、操作部 1 0 6 の JOB NAVI ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 8 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 8 4）。そして、撮影リストが選択されると、システム制御部 1 0 1 は、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 8 5）。そして、システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステッ

プ S 8 6)。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると、撮影モードに移行し、撮影可能状態とする。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があるか否かを判断する（ステップ S 8 7）。

【 0 1 1 8 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があると判断した場合には、撮影指示情報として撮影方法の指示があるか否かを判断し（ステップ S 8 7）、撮影方法の指示でないと判断した場合には、ステップ S 9 0 に移行する一方、撮影方法の指示であると判断した場合には、ステップ S 8 9 に移行する。ステップ S 8 9 では、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影方法の指示（撮影指示情報）を表示部に表示する。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択し、撮影方法の指示に従って撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 1 9 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 のリリースキーの押下に応じて撮影を行う（ステップ S 9 0）。ここでは、撮影ポイントが複数ある場合には、複数回の撮影が行われる。そして、撮影が終了すると（ステップ S 9 1）、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があるか否かを判断し（ステップ S 9 2）、撮影後の処理の指示がないと判断した場合には、ステップ S 9 5 に移行して、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する。他方、ステップ S 9 2 で、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があると判断した場合には、ステップ S 9 3 に移行し、撮影後の処理の指示（撮影指示情報）を表示部に表示する。これにより、ユーザーは、撮影後の処理の指示に従った処理を行うことが可能となる。

【 0 1 2 0 】

操作者は、指示される撮影後の処理を実行するための指示を操作部 1 0 6 を介してシステム制御部 1 0 1 に与え、システム制御部 1 0 1 は、指示される撮影後の処理を実行する（ステップ S 9 4）。ここで、撮影後の処理の指示としては、

例えば、メモの記入等の指示がある。そして、指示通りに処理した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 9 5）。

【 0 1 2 1 】

他方、ステップ S 8 7 で、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報がないと判断した場合には、ステップ S 9 6 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行って、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 9 7）。

【 0 1 2 2 】

なお、撮影指示情報は、上述したテキスト文書に限らず、例えば、図面を使用することにしても良い。図 1 4 は図面の撮影指示情報の例を示しており、特に、撮影の方法（撮影のポイント）のガイダンス図面を示している。これによれば、使用者は、この図面の撮影の方法（撮影のポイント）の指示に従って被写体を選択して撮影することが可能となる。また、ここでは、撮影指示情報として、撮影後の処理の指示を示したが、撮影指示情報としては、撮影と同時に行う処理（例えば、測距処理）の指示でも良い。撮影と同時に行う処理の指示の場合は、撮影前に表示する。これにより、使用者は、撮影と同時に行う処理を実行するための指示をデジタルカメラに与えることが可能となる。

【 0 1 2 3 】

以上説明したように、上記動作例 2 0 によれば、撮影リストのカット名を表示し、そして撮影リスト中のカット名を選択し、選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）の表示を行い、ユーザが表示される撮影方法に従って撮影し、また、表示される撮影後の処理の指示に従って処理を行うこととしたので、使用者は、表示される撮影指示情報に従って撮影や撮影後の処理を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影や撮影後の処理を行うことが可能となる。

【 0 1 2 4 】

〔動作例 6〕

動作例 6 を図 1 5 を参照して説明する。図 1 5 は動作例 6 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 6 では、撮

影リストの選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）を音声で出力し、ユーザが音声で出力される撮影方法の指示に従って撮影し、また、音声で出力される撮影後の処理の指示に従って処理を行う場合の動作を説明する。

【 0 1 2 5 】

図 1 5 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 0 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、カット名に対応させて撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）が音声情報で登録されている。

【 0 1 2 6 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 1 0 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 1 0 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 0 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 1 0 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 0 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があるか否かを判断する（ステップ S 1 0 7）。

【 0 1 2 7 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があると判断した場合には、撮影指示情報として撮影方法の指示があるか否かを判断し（ステップ S 1 0 8）、撮影方法の指示でないと判断した場合に

は、ステップ S 1 1 0 に移行する一方、撮影方法の指示であると判断した場合には、ステップ S 1 0 9 に移行する。ステップ S 1 0 9 では、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影方法の指示（撮影指示情報）を音声記録・再生部から音声で出力する（ステップ S 1 0 9）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択し、撮影方法の指示に従って撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 2 8 】

そして、操作部 1 0 6 のリリースキーの押下に応じて撮影を行う（ステップ S 1 1 0）。ここで、撮影ポイントが複数ある場合には、複数回の撮影が行われる。そして、撮影が終了すると（ステップ S 1 1 1）、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があるか否かを判断し（ステップ S 1 1 2）、撮影後の処理の指示がないと判断した場合には、ステップ S 1 1 5 に移行して、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する。他方、ステップ S 1 1 2 で、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があると判断した場合には、ステップ S 1 1 3 に移行し、撮影後の処理の指示（撮影指示情報）を音声記録・再生部から音声で出力する。これにより、ユーザーは、撮影後の処理の指示に従った処理を行うことが可能となる。

【 0 1 2 9 】

操作者は、指示される撮影後の処理を実行するための指示を操作部 1 0 6 を介してシステム制御部 1 0 1 に与え、システム制御部 1 0 1 は、指示される撮影後の処理を実行する（ステップ S 1 1 4）。ここで、撮影後の処理の指示としては、例えば、メモの記入等の指示がある。そして、指示通りに処理した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 1 1 5）。

【 0 1 3 0 】

他方、ステップ S 1 0 7 で、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報がないと判断した場合には、ステップ S 1 1 6 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行って（ステップ S 1 1 6）、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 1 7）。

【 0 1 3 1 】

なお、ここでは、撮影指示情報として、撮影後の処理の指示を示したが、撮影指示情報としては、撮影と同時に行う処理（例えば、測距処理）の指示でも良い。撮影と同時に行う処理の指示の場合は、撮影前に音声で出力する。これにより、使用者は、撮影と同時に行う処理を実行するための指示をデジタルカメラに与えることが可能となる。

【 0 1 3 2 】

以上説明したように、上記動作例 6 によれば、ユーザが撮影リストのカット名を選択し、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）を音声で出力し、ユーザが音声で出力される撮影方法に従って撮影し、また、音声で出力される撮影後の処理の指示に従って処理を行うこととしたので、使用者は、音声で出力される撮影指示情報に従って撮影や撮影後の処理を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影や撮影後の処理を行うことが可能となる。

【 0 1 3 3 】

〔動作例 7〕

動作例 7 を図 1 6 を参照して説明する。図 1 6 は、動作例 7 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 7 では、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）を動画で再生し、ユーザが動画で再生される撮影方法の指示に従って撮影し、また、動画で再生される撮影後の処理の指示に従って処理を行う場合の動作を説明する。

【 0 1 3 4 】

図 1 6 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 2 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、カット名に対応させて撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）が動画で登録されている。

【 0 1 3 5 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 1 2 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 1 2 3）。ユーザにより撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 2 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 1 2 5）。そして、ユーザのタッチパネル操作部の操作によりカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 2 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があるか否かを判断する（ステップ S 1 2 7）。

【 0 1 3 6 】

システム制御部 1 0 1 は、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報があると判断した場合には、撮影指示情報として撮影方法の指示があるか否かを判断し（ステップ S 1 2 8）、撮影方法の指示でないと判断した場合には、ステップ S 1 3 0 に移行する一方、撮影方法の指示であると判断した場合には、ステップ S 1 2 9 に移行する。ステップ S 1 2 9 では、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影方法の指示（撮影指示情報）を表示部で動画で再生する（ステップ S 1 2 9）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択し、撮影方法の指示に従って撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 3 7 】

ステップ S 1 3 0 では、操作部 1 0 6 のリリースキーの押下に応じて撮影を行う。ここで、撮影ポイントが複数ある場合には、複数回の撮影が行われる。そして、撮影が終了すると、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があるか否かを判断し（ステップ S 1

32)、撮影後の処理の指示がないと判断した場合には、ステップS135に移行して、撮影した画像を画像ファイルとして記録部108に保存する。他方、ステップS132で、システム制御部101は、選択されたカット名に対応する撮影指示情報として撮影後の処理の指示があると判断した場合には、ステップS134に移行し、撮影後の処理の指示（撮影指示情報）を表示部で動画で再生する。これにより、ユーザは、撮影後の処理の指示に従った処理を行うことが可能となる。

【0138】

操作者は、指示される撮影後の処理を実行するための指示を操作部106を介してシステム制御部101に与え、システム制御部101は、指示される撮影後の処理を実行する（ステップS134）。ここで、撮影後の処理の指示としては、例えば、メモの記入等の指示がある。そして、指示通りに処理した画像を画像ファイルとして記録部108に保存する（ステップS135）。

【0139】

他方、ステップS127で、撮影リストに選択されたカット名に対応する撮影指示情報がないと判断した場合には、ステップS136に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行って、撮影した画像を画像ファイルとして記録部108に格納する（ステップS137）。

【0140】

なお、ここでは、撮影指示情報として、撮影後の処理の指示を示したが、撮影指示情報としては、撮影と同時に行う処理（例えば、測距処理）の指示でも良い。撮影と同時に行う処理の指示の場合は、撮影前に動画で表示部に出力する。これにより、使用者は、撮影と同時に行う処理を実行するための指示をデジタルカメラに与えることが可能となる。

【0141】

以上説明したように、上記動作例7によれば、ユーザが撮影リストのカット名を選択し、撮影リストの選択されたカット名に対応する撮影指示情報（撮影方法の指示や撮影後の処理の指示）を動画で出力し、ユーザが動画で出力される撮影方法の指示に従って撮影し、また、動画で出力される撮影後の処理の指示に従っ

て処理を行うこととしたので、使用者は、動画で出力される撮影指示情報に従って撮影や撮影後の処理を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影や撮影後の処理を行うことが可能となる。

【 0 1 4 2 】

〔動作例 8〕

動作例 8 を図 1 7 を参照して説明する。図 1 7 は動作例 8 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 8 では、撮影リストのカット名の一覧を表示し、カット名が選択された後に、記録モードに移行し、当該記録モードで記録した記録データを、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示に従って処理する場合の動作例を説明する。

【 0 1 4 3 】

図 1 7 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 4 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図 1 8 に示す操作指示コマンドが使用される。

【 0 1 4 4 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 1 4 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ 1 4 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 4 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 1 4 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 4 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状

態とする（ステップ S 1 4 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 4 5 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 のリリースキーが押下されると撮影を行う（ステップ S 1 4 8）。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、選択されたカット名に対応する記録後の指示があるか否かを判断し（ステップ S 1 4 9）、撮影リストに選択されたカット名に対応する記録後の指示があると判断した場合には、当該選択されたカット名に対応する記録後の指示に従って画像を処理する（ステップ S 1 5 0）。処理した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 1 5 1）。

【 0 1 4 6 】

以上説明したように、上記動作例 8 によれば、撮影リストのカット名の一覧を表示し、カット名が選択された後に、記録モードに移行し、当該記録モードで記録した記録データを、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示に従って処理することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影後の処理を自動化することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 4 7 】

[動作例 9]

動作例 9 を図 1 9 を参照して説明する。図 1 9 は動作例 9 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 9 では、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する記録後の指示がメール添付送信の場合には、メールに記録した記録データを添付して指定される送信先に送信する場合の動作を説明する。

【 0 1 4 8 】

図 1 9 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この

記録後の指示には、図 1 8 に示す操作指示コマンドが使用される。図 2 0 は撮影の後処理として画像をメールで送るコマンドの例を示す。

【 0 1 4 9 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 1 6 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 1 6 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 6 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 1 6 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 6 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 1 6 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 5 0 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 1 6 8）、記録後の指示がメール添付転送であるか否かを判断する（ステップ S 1 6 9）。

【 0 1 5 1 】

システム制御部 1 0 1 は、記録後の指示がメール添付転送である場合には、記録モードが、静止画、動画、2 値画、音声のいずれであるかを判断し（ステップ S 1 7 0 ～ S 1 7 3）、記録した静止画、動画、2 値画、および音声のいずれかのメール添付ファイルを作成する（ステップ S 1 7 4）。そして、通信モードに移行し、指定される送信先にメール添付ファイルを送信する（ステップ S 1 7 5）。他方、ステップ S 1 6 9 で、記録後の指示がメール添付転送でないと判断した場合には、通常の撮影リストモードで撮影を行い（ステップ S 1 7 6）、撮影

した画像のファイルを記録部 1 0 8 に記憶する（ステップ S 1 7 7）

【 0 1 5 2 】

以上説明したように、上記動作例 9 によれば、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する記録後の指示がメール添付送信の場合には、メールに記録した記録データを添付して指定される送信先に送信することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像等をメールに添付して送信先に自動的に転送することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 5 3 】

[動作例 1 0]

動作例 1 0 を図 2 1 を参照して説明する。図 2 0 は動作例 1 0 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 0 では、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する記録後の指示がサムネール添付転送の場合には、撮影した画像のサムネール画像をメールに添付して指定される送信先に送信する場合の動作を説明する。

【 0 1 5 4 】

図 2 1 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 1 8 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図 1 8 に示す操作指示コマンドが使用される。図 2 0 は記録後の処理として画像をメールで送るコマンドの例を示す。

【 0 1 5 5 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 1 8 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 1 8 3）

）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 8 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 1 8 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 1 8 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 1 8 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 5 6 】

この後、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 1 8 8）、記録後の指示がメール添付転送であるか否かを判断する（ステップ S 1 8 9）。

【 0 1 5 7 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、記録後の指示がメール添付転送である場合には、さらに、サムネール添付転送か否かを判断する（ステップ S 1 9 0）。記録後の指示がサムネール添付転送である場合には、システム制御部 1 0 1 は、撮影した画像データのサムネール画像を作成し、サムネール画像をメールに添付したメール添付ファイルを作成する（ステップ S 1 9 1）。その後、通信モードに移行し、指定される送信先にメール添付ファイルを送信する（ステップ S 1 9 1）。他方、ステップ S 1 8 9 で記録後の指示がメール転送でないと判断した場合およびステップ S 1 8 9 でサムネール添付転送でないと判断した場合には、ステップ S 1 9 3 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 1 9 4）

【 0 1 5 8 】

以上説明したように、上記動作例 1 0 によれば、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する記録後の指示がサムネール添付転送の場合には、撮影した画像のサムネール画像をメールに添付して指定

される送信先に送信することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像のサムネイル画像をメールに添付して送信先に自動的に転送することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【0159】

[動作例11]

動作例11を図22を参照して説明する。図22は動作例11におけるデジタルカメラ100側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例11では、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する記録後の指示が画像変倍送信である場合に、撮影した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、指定される送信先に送信する場合の動作を説明する。

【0160】

図22において、まず、デジタルカメラ100では、パーソナルコンピュータ200と接続して撮影リストを読み込み、記録部108に格納する（ステップS201）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図6参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図18に示す操作指示コマンドが使用される。

【0161】

つづいて、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押されたか否かを判断し（ステップS102）、操作部106のJOBNAVIボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部108に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップS203）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部101は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップS204）。そして、撮影リストが選択されると、システム制御部101は、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップS5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制

御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 0 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 2 0 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 6 2 】

この後、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 2 0 8）、記録後の指示が画像変倍送信であるか否かを判断する（ステップ S 2 0 9）。記録後の指示が画像変倍送信指示である場合には、撮影した画像をデータ記録再生部で指定された倍率で変倍し（ステップ S 2 1 0）、システム制御部 1 0 1 は変倍した画像をメールに添付してメール添付ファイルを作成する（ステップ S 2 1 1）。その後、通信モードに移行し、指定される送信先にメール添付ファイルを送信する（ステップ S 2 1 2）。他方、ステップ S 2 0 9 で記録後の指示が画像変倍送信でないと判断した場合には、ステップ S 2 1 3 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 2 1 4）

【 0 1 6 3 】

以上説明したように、上記動作例 1 1 によれば、撮影リストのカット名の一覧が表示され、撮影リストの選択したカット名に対応する記録後の指示が画像変倍送信である場合に、撮影した画像データを指定される大きさに変倍してメールに添付して、指定される送信先に送信することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像を指定される倍率で変倍しメールに添付して送信先に自動的に転送することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 6 4 】

〔動作例 1 2〕

動作例 1 2 を図 2 3 を参照して説明する。図 2 3 は動作例 1 2 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 2 では、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示が、画像のホーム

ページへのアップロードである場合に、撮影した画像のHTMLファイルを作成して、指定されるホームページにアップロードする場合の動作を説明する。

【 0 1 6 5 】

図 2 3 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 2 2 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図 1 8 に示す操作指示コマンドが使用される。図 2 4 は、記録後の指示として画像を W e b サーバーにアップロードするコマンドの例を示す。

【 0 1 6 6 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 2 2 1）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 2 2 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 2 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 2 2 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 2 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 2 2 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 6 7 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出す（ステップ S 2 2 8）。そして、操作部 1 0 6 のリリースキーの操作に応じて撮影を行う（ステップ S 2 2 9）。つ

づいて、システム制御部 1 0 1 は、読み出した記録後の指示がホームページへのアップロードであるか否かを判断し（ステップ S 2 3 0）、記録後の指示が画像のホームページへのアップロードである場合には、撮影画像を HTML ファイルにまとめてアップロード可能な形式にする（ステップ S 2 3 1）。そして、通信モードに移行して、HTML ファイルを指定されるホームページにアップロードする（ステップ S 2 3 2）。

【 0 1 6 8 】

他方、ステップ S 2 2 4 で、記録後の指示が画像のホームページアップへのロードでない場合には、ステップ S 2 3 3 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 2 3 4）。

【 0 1 6 9 】

以上説明したように、上記動作例 1 2 によれば、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示が、画像のホームページへのアップロードである場合に、撮影した画像の HTML ファイルを作成して、指定されるホームページにアップロードすることとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像をホームページに自動的にアップロードすることができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 1 7 0 】

〔動作例 1 3〕

動作例 1 3 を図 2 5 を参照して説明する。図 2 5 は動作例 1 3 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 3 では、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示が、画像のホームページへのアップロードおよびそのホームページの URL の通知の場合に、撮影した画像を指定されるホームページにアップロードし、かつ、当該ホームページの URL をメールにて指定される宛先に送信する場合の動作を説明する。

【 0 1 7 1 】

図 2 5 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ

200と接続して撮影リストを読み込み、記録部108に格納する（ステップS241）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図6参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図18に示す操作指示コマンドが使用される。図24は記録後の指示として画像をWebサーバーにアップロードするコマンドの例を示す。

【0172】

つづいて、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押されたか否かを判断し（ステップS242）、操作部106のJOBNAVIボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部108に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップS243）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部101は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップS244）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップS245）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部101は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップS246）。システム制御部101は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップS247）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【0173】

システム制御部101は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部108から読み出す（ステップS248）。そして、操作部106のリリースキーの操作に応じて撮影を行う（ステップS249）。つづいて、システム制御部101は、読み出した記録後の指示がホームページへのアップロードであるか否かを判断し（ステップS250）、読み出した記録後の指示がホームページへのアップロードである場合には、システム制御部101は、撮影画像をHTMLファイルにまとめてアップロード可能な形式にする（ステップS2

51)。つづいて、システム制御部101は、記録後の指示がメールによるURL通知があるか否かを判断し（ステップS252）、記録後の指示にメールによるURL通知がない場合にはステップS254に移行する一方、記録後の指示にメールによるURL通知指示がある場合には、本文中にアップロード先のURLを挿入したメールファイルを作成してステップS254に移行する。ステップS254では、HTMLファイルを指定されるホームページにアップロードし、また、ステップS127でメールファイルを作成した場合には、指定される宛先にメールファイルを送信する。

【0174】

他方、ステップS250で、記録後の指示がホームページへのアップロードでない場合には、ステップS255に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部108に画像ファイルとして格納する（ステップS256）

【0175】

以上説明したように、上記動作例13によれば、撮影リストを表示部に表示し、表示された撮影リストの中からカット名を選択し、選択されたカット名に対応する記録後の指示が、画像のホームページへのアップロードおよびそのホームページのURLの通知の場合に、撮影した画像を指定されるホームページにアップロードし、かつ、当該ホームページのURLをメールにて指定される宛先に送信することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では撮影した画像をホームページに自動的にアップロードできるとともに、当該ホームページのURLをメールにて指定される宛先に自動的に送信することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【0176】

なお、動作例5～動作例13では、撮影リストでは、カット名毎に記録後（撮影後）の指示を登録しているが、撮影リストで、カット名毎の指示ではなく、撮影リスト全体としての指示を与える形式にしても良い。例えば、全てのカット名の記録（撮影）が終了した場合に指示を与える形式にしても良く、具体的には、

撮影リストの全てのカット名の記録が終了した場合に、記録した画像を纏めてホームページにアップロードすることを指示することにしても良い。

【0177】

〔動作例13〕

動作例13を図25を参照して説明する。図25は動作例13におけるデジタルカメラ100側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例13では、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する記録後の指示がメモ入力である場合には、撮影後、メモ入力モードになり、入力されるメモのファイルを撮影した画像データの画像ファイルの関連ファイルとして保存する場合の動作を説明する。

【0178】

図25において、まず、デジタルカメラ100では、パーソナルコンピュータ200と接続して撮影リストを読み込み、記録部108に格納する（ステップS261）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図6参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図18に示す操作指示コマンドが使用される。

【0179】

つづいて、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押されたか否かを判断し（ステップS262）、操作部106のJOBNAVIボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部108に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップS263）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部101は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップS264）。そして、撮影リストが選択されると、システム制御部101は、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップS264）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部101は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップS264）。システム制御部101は、カット名が選択されると撮

影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップS 2 7 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【0 1 8 0】

そして、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップS 2 7 8）、記録後の指示が、メモ入力の指示であるか否かを判断する（ステップS 2 7 9）。選択されたカット名に対応する撮影後指示がメモ入力の指示である場合には、ステップS 2 8 0に移行し、操作部 1 0 6 のリリースキーの押下に応じて被写体を撮影する。撮影した被写体の画像データは記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する。

【0 1 8 1】

この後、システム制御部 1 0 1 は、メモ入力モードに移行し（ステップS 2 8 1）、タッチパネル操作部上でソフトキーボード入力を選択するキーが選択されたか否かを判断し（ステップS 1 7 6）、ソフトキーボード入力を選択するキーが選択された場合には、使用者により、ソフトウェアキーボードでテキスト文字が入力され（ステップS 1 7 7）、入力されたテキスト文字を関連ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップS 1 7 8）。他方、ステップS 2 8 2で、タッチパネル操作部上でソフトキーボード入力を選択するキーが選択されなかった場合には、使用者により、タッチパネル操作部上でタッチペンを使用して手書き文字が入力され（ステップS 2 8 5）、入力された手書き文字を関連ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップS 2 8 4）。

【0 1 8 2】

他方、ステップS 1 7 3で、撮影後指示がメモの入力指示でないと判断した場合には、ステップS 1 8 0に移行し、通常撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 にE X I F形式の画像ファイルとして格納する（ステップS 1 8 1）

【0 1 8 3】

以上説明したように、動作例 1 3によれば、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する記録後の指示がメモ入力である場合には、メモ入力モードになり、入力されるメモのファイルを撮影した画像ファイルの関連フ

ファイルとして保存することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、撮影に関係するメモを関連ファイルとして保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 1 8 4 】

〔動作例 1 4〕

動作例 1 4 を図 2 7 を参照して説明する。図 2 7 は動作例 1 4 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 4 では、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する記録後の指示がメモ入力画像合成である場合には、撮影後、メモ入力モードになり、入力されるメモ情報を、撮影した画像に合成して保存する場合の動作を説明する。

【 0 1 8 5 】

図 2 7 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 2 9 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図 1 8 に示す操作指示コマンドが使用される。

【 0 1 8 6 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 2 9 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 2 9 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 9 4）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 2 9 5）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 2 9 6）。

システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 2 9 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 8 7 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 2 9 8）、記録後の指示が、メモ入力画像合成の指示であるか否かを判断する（ステップ S 2 9 9）。選択されたカット名に対応する記録後の指示がメモ入力画像合成の指示である場合には、ステップ S 3 0 0 に移行し、操作部 1 0 6 のリリースキーの操作に応じて、被写体を撮影する。その後、メモ入力モードに移行し（ステップ S 3 0 1）、タッチパネル操作部上でソフトキーボード入力を選択するキーが選択されたか否かを判断し（ステップ S 3 0 2）、ソフトキーボード入力を選択するキーが選択された場合には、使用者により、ソフトキーボードでテキスト文字が入力され（ステップ S 3 0 3）、システム制御部 1 0 1 は、入力されたテキスト文字を撮影した画像に合成して合成画像を作成して、この合成画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 3 0 4）。他方、ステップ S 2 9 9 で、タッチパネル操作部上でソフトキーボード入力を選択するキーが選択されなかった場合には、使用者により、タッチパネル操作部上でタッチペンを使用して手書き文字が入力され（ステップ S 3 0 5）、システム制御部 1 0 1 は、入力された手書き文字を撮影した画像に合成して合成画像を作成し、この合成画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 3 0 4）。

【 0 1 8 8 】

一方、ステップ S 2 9 9 で、記録後の指示がメモ入力画像合成の指示でないと判断した場合には、ステップ S 3 0 6 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 3 0 7）

【 0 1 8 9 】

以上説明したように、動作例 1 4 によれば、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する記録後の指示がメモ入力の画像合成である場合

には、撮影後、メモ入力モードになり、入力されるメモ情報を、撮影した画像に合成して保存することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、撮影に係るメモを撮影した画像に合成して保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 1 9 0 】

〔動作例 1 5〕

動作例 1 5 を図 2 8 を参照して説明する。図 2 8 は、動作例 1 5 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 5 では、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する記録後の指示が、音声入力である場合には、撮影後、音声入力モードになり、入力される音声を撮影した画像ファイルの関連ファイルとして保存する場合の動作を説明する。

【 0 1 9 1 】

図 2 8 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 3 1 1）。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図 6 参照）、さらに、各カット名に関連づけて記録後の指示が登録されている。この記録後の指示には、図 1 8 に示す操作指示コマンドが使用される。

【 0 1 9 2 】

つづいて、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押されたか否かを判断し（ステップ S 3 1 2）、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 3 1 3）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップ S 3 1 4）。そして、撮影リストが選択されると、システム制御部 1 0 1 は、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップ S 3 1 5）。ここで、操作者のタッチ

パネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部 1 0 1 は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップ S 3 1 6）。システム制御部 1 0 1 は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップ S 3 1 7）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【 0 1 9 3 】

そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの選択されたカット名に対応する記録後の指示を記録部 1 0 8 から読み出し（ステップ S 3 1 8）、記録後の指示が、音声入力の指示であるか否かを判断する（ステップ S 3 1 9）。記録後の指示が音声入力の指示である場合には、ステップ S 3 2 0 に移行する。ステップ S 3 2 1 では、操作部 1 0 6 のリリースキーの操作に応じた、被写体を撮影する。撮影した画像データは画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する。その後、システム制御部 1 0 1 は、音声入力モードに移行し（ステップ S 2 1 5）、音声記録・再生部を介して入力される音声の音声ファイルを撮影した画像の画像ファイルの関連ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 2 1 6）。

【 0 1 9 4 】

他方、ステップ S 3 1 9 で、記録後の指示が、音声の入力指示でないと判断した場合には、ステップ S 3 2 3 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 3 2 4）

【 0 1 9 5 】

以上説明したように、動作例 1 5 によれば、撮影リストのカット名が選択され、選択されたカット名に対応する記録後の指示が音声入力である場合には、音声入力モードになり、入力される音声の音声ファイルを撮影した画像の画像ファイルの関連ファイルとして保存することとしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、撮影後の段階では、撮影に関係する音声に関連ファイルとして保存することができ、使用者の作業をスムーズに進行させることが可能となる。

【 0 1 9 6 】

〔動作例 1 6〕

動作例 1 6 を図 2 9 を参照して説明する。図 2 9 は動作例 1 6 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 6 では、デジタルカメラで、撮影リストのカット名の撮影が全て終了した場合に、その旨をパーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送する場合の動作を説明する。

【0 1 9 7】

まず、デジタルカメラは、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストファイルを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部に表示する（ステップ S 3 3 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの記録後の指示を読み出し（ステップ S 3 3 2）、記録後の指示が撮影終了の自動報告指示であるか否かを判断する（ステップ S 3 3 3）。

【0 1 9 8】

システム制御部 1 0 1 は、記録後の指示が、自動報告指示である場合には、ステップ S 3 4 4 に移行する。ステップ S 3 4 4 では、カット名が選択されて撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストのカット名の撮影が全て終了したか否かを判断する（ステップ S 3 3 5）。撮影リストのカット名の撮影が全て終了していない場合には、ステップ S 3 3 4 に戻る一方、撮影リストのカット名の撮影が全て終了した場合には、ステップ S 3 3 6 に移行して、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストのカット名の撮影が全て終了した旨を示す撮影終了メールファイルを作成する。そして、通信モードに移行し、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に撮影終了メールファイルを送信する。他方、ステップ S 3 3 3 で、記録後の指示が撮影終了の自動報告でないと判断した場合には、通常の撮影リストモードで撮影を行い（ステップ S 3 3 8）、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 3 3 9）

【0 1 9 9】

以上説明したように、動作例 1 6 によれば、デジタルカメラで、撮影リストのカット名の撮影が全て終了した場合に、その旨をパーソナルコンピュータ 2 0 0

に転送することとしたので、撮影リストの作業を終了したか否かを指示者が把握することが可能となる。

【0200】

[動作例17]

動作例17を図30を参照して説明する。図30は動作例17におけるデジタルカメラ100側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例17では、デジタルカメラ100で、撮影リストのカット名の撮影が自動報告ポイントまで終了した場合に、その旨をパーソナルコンピュータ200に通知する場合の動作を説明する。

【0201】

まず、デジタルカメラ100は、パーソナルコンピュータ200から転送されてくる撮影リストファイルを記録部108に格納しているものとする。そして、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押下されると、撮影リストモードとなり、記録部108に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部に表示する（ステップS351）。そして、システム制御部101は、撮影リストの記録後の指示を読み出し（ステップS352）、記録後の指示が撮影終了の自動報告指示であるか否かを判断する（ステップS353）。

【0202】

システム制御部101は、記録後の指示が、自動報告指示である場合には、ステップS354に移行する。ステップS354では、カット名が選択されて撮影が行われる。そして、システム制御部101は、撮影リストのカット名の撮影が自動報告ポイントまで終了したか否かを判断する（ステップS355）。ここで、自動報告ポイントとしては、撮影リストの撮影が所定枚数終了した場合や、所定数のカット名の撮影が終了した場合などとすることができる。

【0203】

撮影リストのカット名の撮影が自動報告ポイントまで終了していない場合にはステップS354に戻る一方、撮影リストのカット名の撮影が自動報告終了ポイントまで終了した場合には、ステップS356に移行して、システム制御部10

1 は、撮影リストのカット名の撮影が自動報告終了ポイントまで終了した旨を示す報告メールファイルを作成する（ステップ S 3 5 6）。つづいて、通信モードに移行し、パーソナルコンピュータ 2 0 0 に報告メールファイルを送信する。

【 0 2 0 4 】

他方、ステップ S 3 5 3 で、記録後の指示が撮影終了の自動報告指示でない場合には、ステップ S 3 5 8 に移行して通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 3 5 9）。

【 0 2 0 5 】

以上説明したように、動作例 1 7 によれば、デジタルカメラで、撮影リストのカット名の撮影が自動報告ポイントまで終了した場合に、その旨をパーソナルコンピュータ 2 0 0 に転送することとしたので、撮影リストの作業の進行状況を指示者が把握することが可能となる。

【 0 2 0 6 】

〔動作例 1 8〕

動作例 1 8 を図 3 1 を参照して説明する。図 3 1 は動作例 1 8 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 8 では、撮影リストにグループ化の指示がある場合には、撮影した画像をグループ化して保存する場合の動作を説明する。

【 0 2 0 7 】

図 3 1 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 は、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストファイルを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部に表示する（ステップ S 3 6 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの記録後の指示を読み出し（ステップ S 3 6 2）、記録後の指示がグループ化の指示であるか否かを判断する（ステップ S 3 6 3）。撮影リストにグループ化の指示がある場合には、ステップ S 3 6 4 に移行する。ステップ S 3 6 4 では、カット名が選択された後、撮影が行われ

る。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了したか否かを判断する（ステップ S 3 6 5）。撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了していない場合には、ステップ S 3 6 4 に戻る一方、撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了した場合には、グループ化の処理を行う（ステップ S 3 3 6）。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、同一フォルダに入れるか否かの選択を促すメッセージが表示部に表示する。使用者の操作部 1 0 6 の操作で同一フォルダに入れるが選択された場合には（ステップ S 3 6 7）、撮影リストのフォルダを指定して、撮影リスト内の全カット名に対応する記録ファイルを登録する（ステップ S 3 6 8）。他方、ステップ S 3 6 7 で使用者の操作部 1 0 6 の操作で同一のフォルダに入れるが選択されなかった場合には、撮影リストのフォルダの下層にカット名毎のフォルダを作成し（ステップ S 3 6 9）、対応するカット名のフォルダに画像ファイルを登録し（ステップ S 3 7 0）、すべてのカットのグループ保存が終了するまで同じ処理を繰り返す（ステップ S 3 6 9 ～ステップ S 3 7 1）。

【 0 2 0 8 】

他方、ステップ S 3 7 2 で、撮影リストにグループ化の指示がない場合には、ステップ S 2 7 2 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 2 7 3）

【 0 2 0 9 】

図 3 2 は、撮影済み撮影画像のフォルダ構成の一例を示す図である。同図では、撮影リストごとにフォルダが生成されて、その中に撮影済み撮影リストファイルと、撮影画像が格納されている例を示す。

【 0 2 1 0 】

以上説明したように、動作例 1 8 によれば、撮影リストにグループ化の指示がある場合には、撮影した画像ファイルをグループ化してフォルダに登録することとしたので、ファイル管理が容易となる。

【 0 2 1 1 】

[動作例 1 9]

動作例 1 9 を図 3 3 を参照して説明する。図 3 3 は動作例 1 9 におけるデジタ

ルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 1 9 では、撮影リストにグループ化の指示がある場合には、撮影リストに従って記録した、静止画、動画、音声、二値化画像等を、静止画、動画、音声、二値化画像別にグループ化して保存する場合の動作を説明する。

【 0 2 1 2 】

図 3 3 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 は、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストファイルを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部に表示する（ステップ S 3 8 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの記録後の指示を読み出し（ステップ S 3 8 2）、記録後の指示がグループ化の指示であるか否かを判断する（ステップ S 3 8 3）。撮影リストにグループ化の指示がある場合には、ステップ S 3 8 4 に移行する。ステップ S 3 8 4 では、カット名が選択された後、撮影が行われる。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了したか否かを判断する（ステップ S 3 8 5）。撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了していない場合には、ステップ S 3 8 4 に戻る一方、撮影リスト上のカット名の撮影が全て終了した場合には、グループ化の処理を行う（ステップ S 3 8 6）。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、同一のフォルダに入れるか否かの選択を促すメッセージが表示部に表示する。使用者の操作部 1 0 6 の操作で同一グループに入れるが選択された場合には（ステップ S 3 8 7）、撮影リストのフォルダを指定して、撮影リスト内の全カット名に対応する記録ファイルを登録する（ステップ S 3 8 8）。他方、使用者の操作部 1 0 6 の操作で同一グループに入れるが選択されなかった場合には（ステップ S 3 8 7）、記録ファイルのモード（静止画、動画、音声、二値画）別に整理し（ステップ S 3 8 9）、撮影リストのフォルダの下層にモード（静止画、動画、音声、二値画）別のフォルダを作成して、フォルダ別に対応する記録ファイルを登録し（ステップ S 3 9 0）、グループ保存が終了するまで同じ処理を繰り返す（ステップ S 3 9 1）。

【 0 2 1 3 】

他方、ステップ S 3 8 3 で、撮影リストにグループ化の指示がない場合には、ステップ S 3 9 2 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影を行い、撮影した画像を記録部 1 0 8 に画像ファイルとして格納する（ステップ S 3 9 3）

【 0 2 1 4 】

以上説明したように、動作例 1 9 によれば、撮影リストにグループ化の指示がある場合には、撮影リストに従って記録した、静止画、動画、音声、二値化画像等を、静止画、動画、音声、二値化画像別にグループ化して保存することとしたので、ファイル管理が容易となる。

【 0 2 1 5 】

[動作例 2 0]

動作例 2 0 を図 3 4 を参照して説明する。図 3 4 は、動作例 2 0 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 2 0 では、撮影リストの記録後の指示が複数枚の画像の組み合わせである場合には、所定枚数の撮影後、撮影リストの各カットの組み合わせ情報に応じて複数枚の画像を組み合わせ、1 つの画像ファイルを作成する場合の動作を説明する。

【 0 2 1 6 】

図 3 4 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 は、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部に表示する（ステップ S 4 0 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの記録後の指示を読み出し（ステップ S 4 0 2）、記録後の指示が複数画像の組み合わせであるか否かを判断する（ステップ S 4 0 3）。この判断の結果、記録後の指示が複数画像の組み合わせである場合には、ステップ S 4 0 4 に移行する。

【 0 2 1 7 】

ステップ S 4 0 4 では、カット名が選択されて撮影が行われる。システム制御部 1 0 1 は、所定枚数の撮影が終了したか否かを判断する（ステップ S 4 0 5）。所定枚数の撮影が終了していない場合には、ステップ S 4 0 4 に戻る一方、所

定枚数の撮影が終了した場合には、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストから各カットの組み合わせ情報を読み込み（ステップ S 4 0 6）、各カットの組み合わせ情報に従って、撮影した複数枚の画像を合成し（ステップ S 4 0 7）、合成した画像を 1 つの画像ファイルとして記録部 1 0 8 に保存する（ステップ S 4 0 8）。

【 0 2 1 8 】

他方、ステップ S 4 0 3 で、記録後の指示が複数画像の組み合わせでない場合には、ステップ S 4 0 9 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 4 1 0）。

【 0 2 1 9 】

以上説明したように、上記動作例 2 0 によれば、撮影リストの記録後の指示が、複数枚の画像の組み合わせである場合には、複数枚の画像を組み合わせで 1 つの画像ファイルを作成することとしたので、撮影後に、自動的に複数枚の画像を合成することができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 2 0 】

〔動作例 2 1〕

動作例 2 1 を図 3 5 を参照して説明する。図 3 5 は動作例 2 1 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 2 1 では、撮影リストの記録後の指示が複数画像の補正処理である場合には、撮影後、複数画像に対して補正処理を行う場合の動作を説明する。

【 0 2 2 1 】

図 3 5 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 は、パーソナルコンピュータ 2 0 0 から転送されてくる撮影リストを記録部 1 0 8 に格納しているものとする。そして、システム制御部 1 0 1 は、操作部 1 0 6 の J O B N A V I ボタンが押下されると、撮影リストモードとなり、記録部 1 0 8 に格納されている撮影リストのカット名を読み出し、表示部に表示する（ステップ S 4 2 1）。そして、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの記録後の指示を読み出し（ステップ S 4 2 2）、記録後の指示が複数画像の補正処理の指示であるか否かを判断する（ステップ S 4 0 3）。この判断の結果、記録後の指示が複数画像の補正指示である場合

には、ステップ S 4 3 4 に移行する。

【 0 2 2 2 】

ステップ S 4 3 4 では、カット名が選択されて、撮影が行われる。つづいて、システム制御部 1 0 1 は、撮影リストの記録後の指示が、撮影中の補正指示である場合には（ステップ S 4 3 5）、撮影パラメータを補正（例えば、露出の調整）する（ステップ S 4 3 6）。そして、システム制御部 1 0 1 は、所定枚数の撮影が終了したか否かを判断し（ステップ S 4 3 7）、所定枚数の撮影が終了していない場合には、ステップ S 4 3 4 に戻る一方、所定枚数の撮影が終了した場合には、撮影した複数の画像に対して、撮影終了後の補正処理（色補正、レンズの歪み補正等）を行う（ステップ S 4 3 8）。そして、補正処理された画像を記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 4 3 9）。

【 0 2 2 3 】

他方、ステップ S 4 3 3 で、撮影リストの記録後の指示が複数画像の補正処理でない場合には、ステップ S 4 4 0 に移行し、通常の撮影リストモードで撮影し、撮影した画像を画像ファイルとして記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S 4 4 1）。

【 0 2 2 4 】

以上説明したように、上記動作例 2 1 によれば、撮影リストの記録後の指示が複数画像の補正処理である場合には、撮影後、複数画像に対して補正処理を自動的に行うことができ、使用者の使い勝手が良くなる。

【 0 2 2 5 】

[動作例 2 2]

動作例 2 2 を図 3 6 を参照して説明する。図 3 6 は動作例 2 2 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートを示す。動作例 2 2 では、撮影リストの選択されるカット名に対応する撮影条件指示に従って撮影を行う場合の動作を説明する。

【 0 2 2 6 】

図 3 6 において、まず、デジタルカメラ 1 0 0 では、パーソナルコンピュータ 2 0 0 と接続して撮影リストを読み込み、記録部 1 0 8 に格納する（ステップ S

451)。撮影リストには、記録すべき被記録対象のカット名が含まれており（図6参照）、さらに、各カット名に関連づけて撮影条件指示が登録されている。

【0227】

つづいて、システム制御部101は、操作部106のJOBNAVIボタンが押されたか否かを判断し（ステップS452）、操作部106のJOBNAVIボタンが押された場合には、撮影リストモードに入り、記録部108に格納されている撮影リストの撮影リスト名の一覧を表示部に表示する（ステップS453）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作で撮影リスト名の一覧の中から撮影リストが選択される。システム制御部101は、撮影リストの一覧の中から撮影リストが選択されたか否かを判断する（ステップS454）。そして、撮影リストが選択されると、選択された撮影リストのカット名の一覧を表示部に表示する（ステップS455）。ここで、操作者のタッチパネル操作部の操作でカット名の一覧の中からカット名が選択される。システム制御部101は、カット名の一覧の中からカット名が選択されたか否かを判断する（ステップS456）。システム制御部101は、カット名が選択されると撮影モードに入り、撮影可能状態とする（ステップS457）。これにより、ユーザーは、カット名に対応する被写体を選択して撮影を行うことが可能となる。

【0228】

そして、システム制御部101は、撮影リスト内に選択されたカット名に対応する撮影条件指示があるか否かを判別して（ステップS458）、撮影条件指示がある場合には、撮影条件を当該撮影条件指示に従って設定する（ステップS459）。そして、設定した撮影条件で撮影を実行する（ステップS460）。つづいて、撮影した画像を記録部108に格納する（ステップS461）。他方、ステップS458で撮影リスト内に選択されたカット名に対応する撮影条件指示がない場合には、ステップS462に移行して、通常の撮影リストモードの撮影を行い、撮影した画像を画像ファイルとして記録部108に格納する（ステップS463）。

【0229】

なお、撮影リストに含まれる撮影条件指示としては、記録モードの指示（音声

、動画等）、日付、撮影時間、カメラの姿勢（方角、回転角度）、連写、絞り、シャッター速度、フラッシュON/OFF、赤目防止ON/OFF、白黒モード、セピアモード、文字原稿撮影モード（エッジを強調した文字をはっきりと、際立たせるモード）、画素数、圧縮率、オートフォーカス、マニュアルフォーカス、距離固定、手ぶれ補正ON/OFF、ホワイトバランス設定、画像スタンプ合成、カット枚数、縦横サイズ、アスペクト比、露出モード、解像度、暗号化の有無、電子すかしの有無等がある。

【0230】

以上説明したように、上記動作例22によれば、撮影リストを表示部に表示し、表示された撮影リストの中からカット名を選択し、選択したカット名に対応した撮影条件指示に従って撮影を行うこととしたので、使用者は、撮影リストを使用して、撮影の段階では必要なカットの取り忘れを防止でき、また、設定される撮影条件指示で自動的に撮影を行うことができ、撮影リストの作成者（指示者）の指示に従った撮影を行うことが可能となる。

【0231】

尚、本発明は、上記した実施の形態に限られるものではなく、発明の要旨を変更しない範囲で、適宜変更して使用可能である。

【0232】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、作業漏れや取り忘れを防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明にかかるデジタルカメラシステムの概略構成図である。

【図2】

撮影指示ファイルの一例を示す図である。

【図3】

図1のデジタルカメラ100の構成を示すブロック図である。

【図4】

図1のパーソナルコンピュータ200を示す説明図である。

【図 5】

図 5 は動作例 1 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 6】

図 6 は撮影リストファイルの一例を示す説明図である。

【図 7】

図 7 は表示部の表示例を示す説明図である。

【図 8】

動作例 2 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 9】

図 6 の撮影リスト（未撮影）で撮影した場合の撮影リストのフォーマットの一例を示す説明図である。

【図 1 0】

動作例 3 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 1 1】

動作例 4 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 1 2】

画像データに選択されたカット名を合成する場合を説明するための説明図である。

【図 1 3】

動作例 5 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 1 4】

図面の撮影指示情報の例を示す説明図である。

【図 1 5】

動作例 6 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

ートである。

【図 1 6】

動作例 7 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 1 7】

動作例 8 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 1 8】

操作指示コマンドを示す説明図である。

【図 1 9】

動作例 9 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 0】

撮影の後処理として画像をメールで送るコマンドの例を示す説明図である。

【図 2 1】

動作例 1 0 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 2】

動作例 1 1 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 3】

動作例 1 2 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 4】

記録後の指示として画像を W e b サーバーにアップロードするコマンドの例を示す説明図である。

【図 2 5】

動作例 1 3 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 6】

動作例 1 3 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 7】

動作例 1 4 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 8】

動作例 1 5 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 2 9】

動作例 1 6 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3 0】

動作例 1 7 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3 1】

動作例 1 8 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3 2】

撮影済み撮影画像のフォルダ構成の一例を示す図である。

【図 3 3】

動作例 1 9 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3 4】

動作例 2 0 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3 5】

動作例 2 1 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3 6】

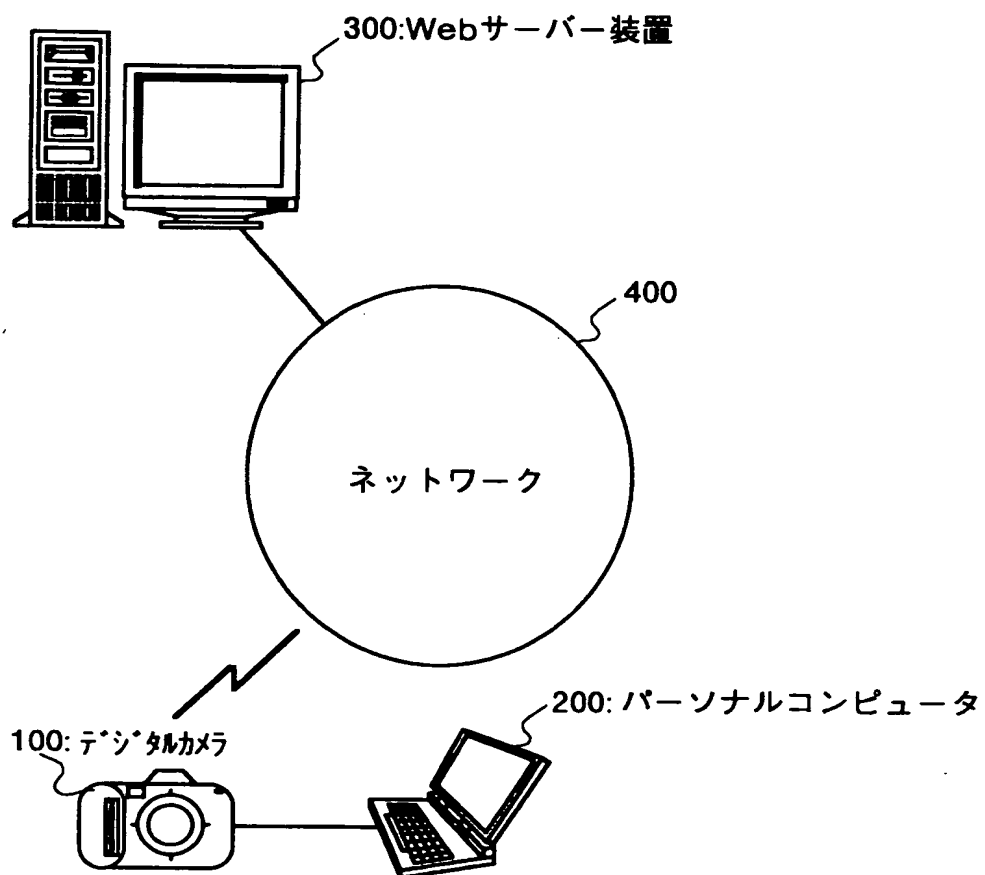
動作例 2 2 におけるデジタルカメラ 1 0 0 側の動作を説明するためのフロー
チャートである。

【符号の説明】

- 1 0 0 デジタルカメラ
- 2 0 0 パーソナルコンピュータ
- 3 0 0 W e b サーバー
- 4 0 0 ネットワーク

【書類名】 図面

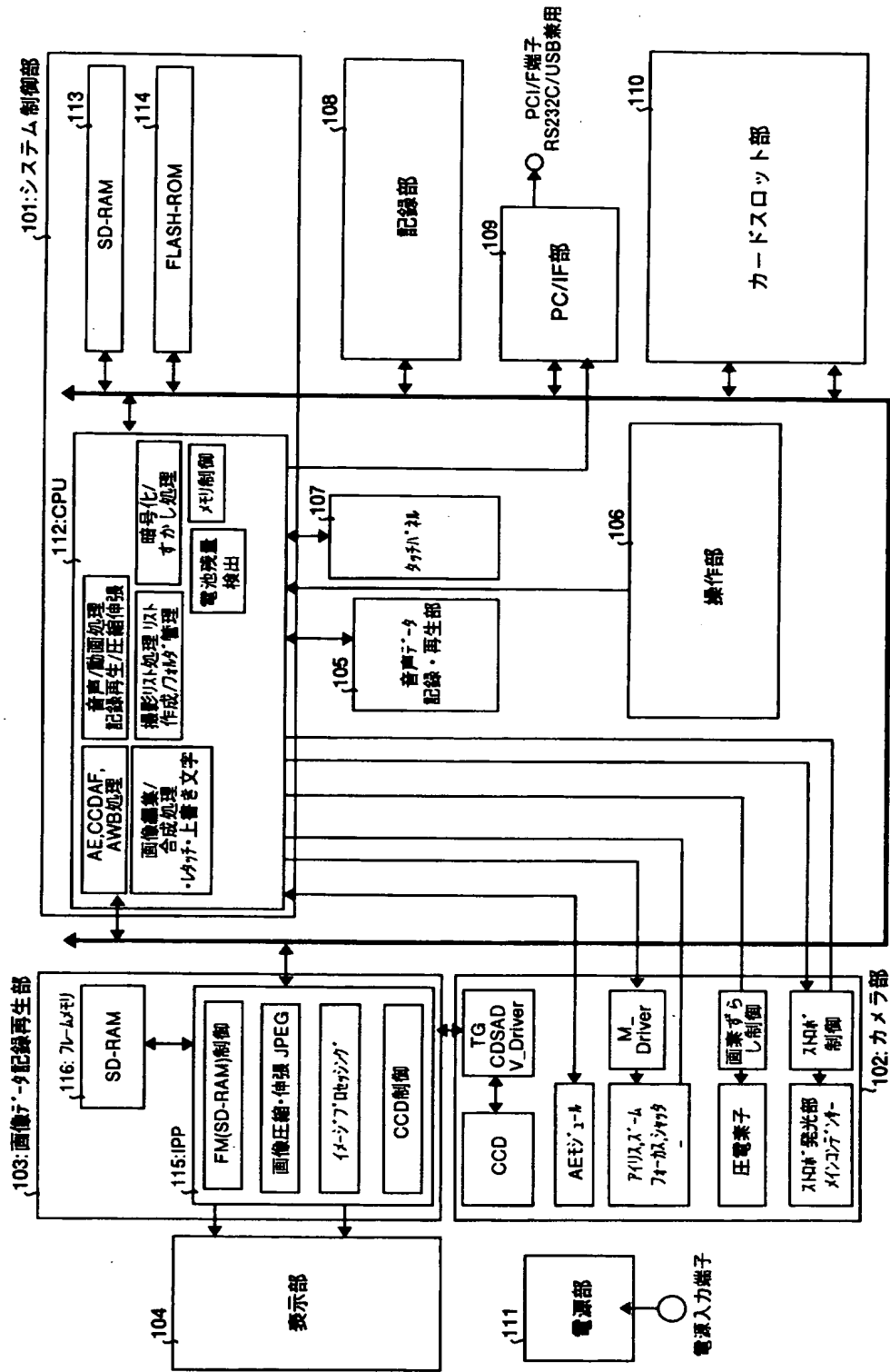
【図 1】



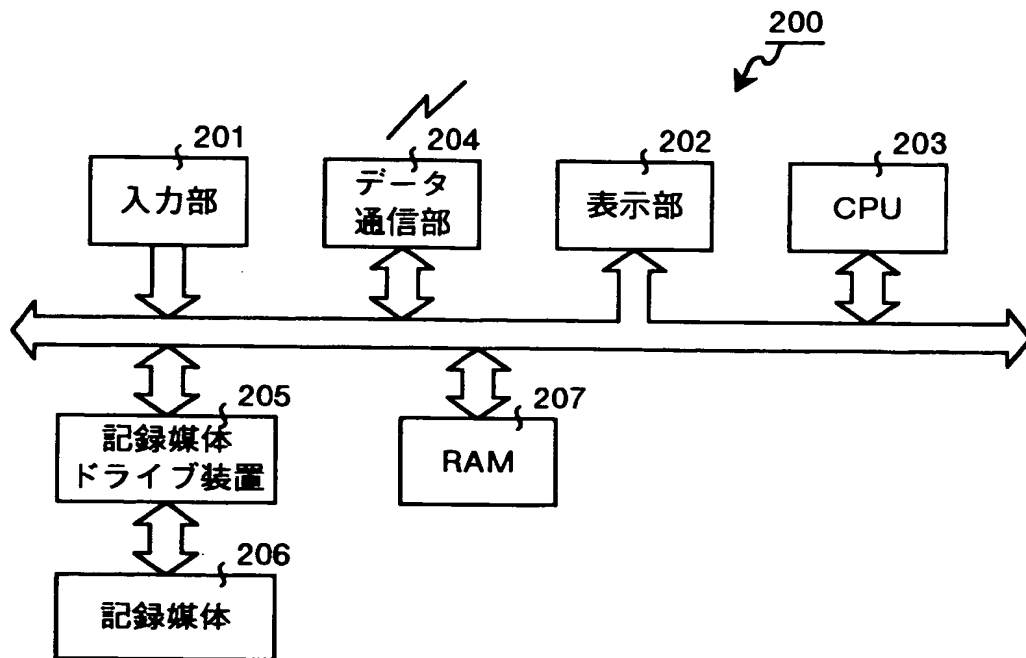
【図 2】

No.	商品名	撮影指示
1	バッグ	
2	バッグ	ブランドの「K」の文字がはっきり見えるように撮影
3	女性用ミニバッグ	軽くて、おしゃれな感じを出す
4	手提げバッグ	携帯電話を入れるポケットがあることがわかるように撮影
5	名刺入れ	2個ならべて、裏と表のデザインがわかるように
6	ペントレー	実際にペンをのせて撮影
7	札入	色違い3色をならべて撮影
8	ペンケース	大きさがわかるようにタバコを並べて撮影

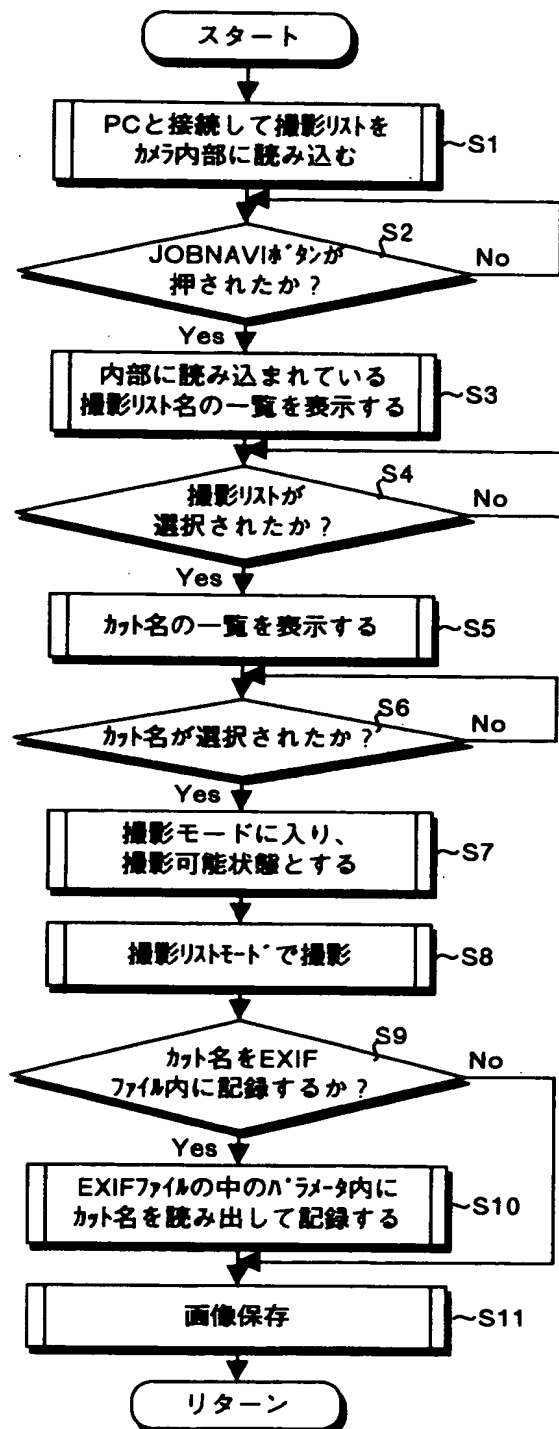
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

[LIST TITLE]
title=カメラショウ' 99
[リコー]
[キャノン]
[ゼロックス]
[カシオ]
[ミノルタ]
[ソニー]
[コダック]

【図 7】

(A)

撮影リストのカットを選択してください

98' ビジネスショー

☒ ビジネスショー-98

☐ 東京モーターショー

☐ 新社屋建設現場

☐ 新春ゴルフコンペ

CANCEL

ENTER

キャンセル

実行

(B)

撮影リストのカットを選択してください

98' ビジネスショー

☐ 入口の写真 321

☐ キヤノン 321

☐ ゼロックス 321

☐ NEC 321

1998.05.27 5:30
RND0528.JPG

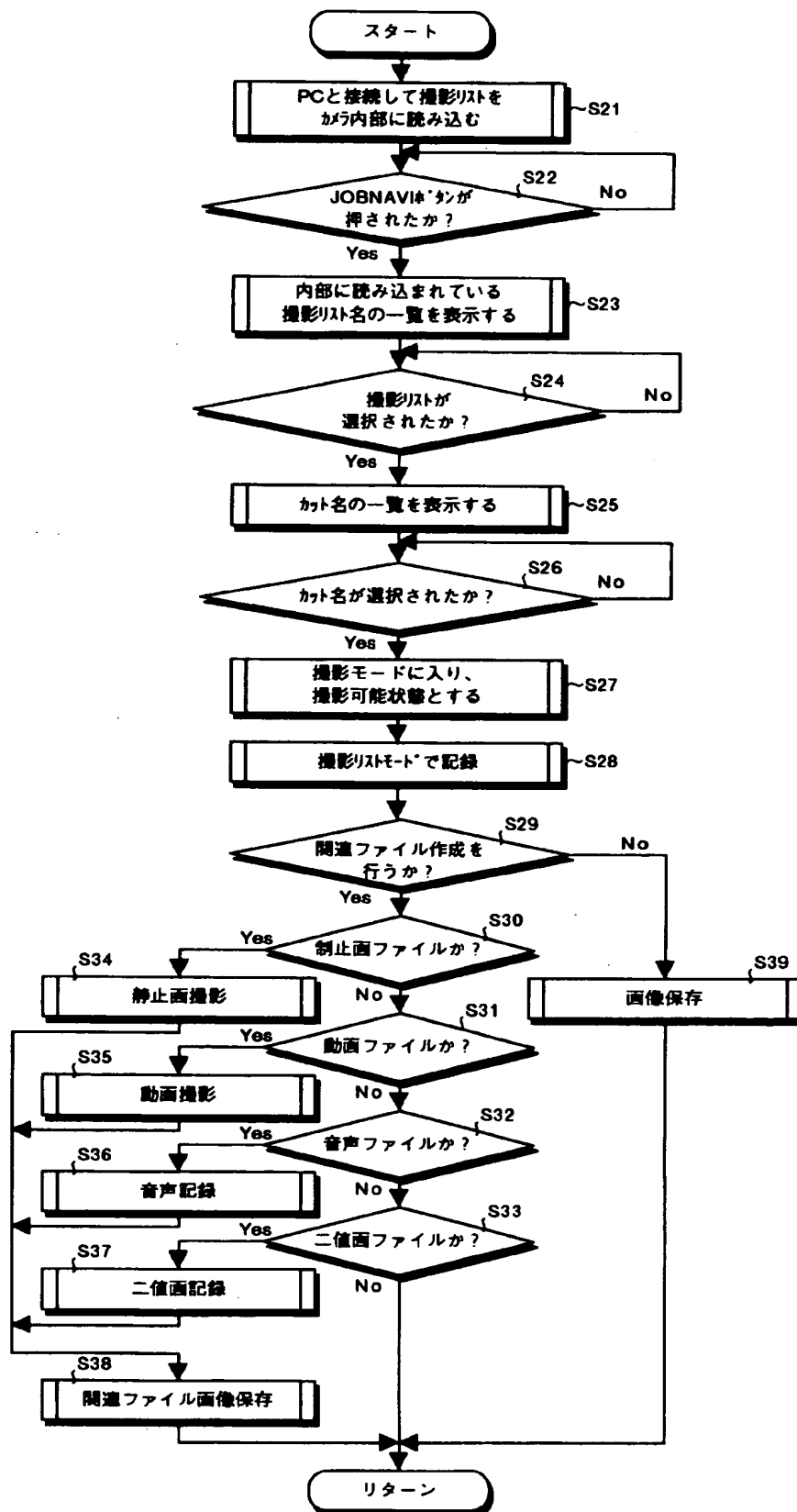
CANCEL

ENTER

終了

OK

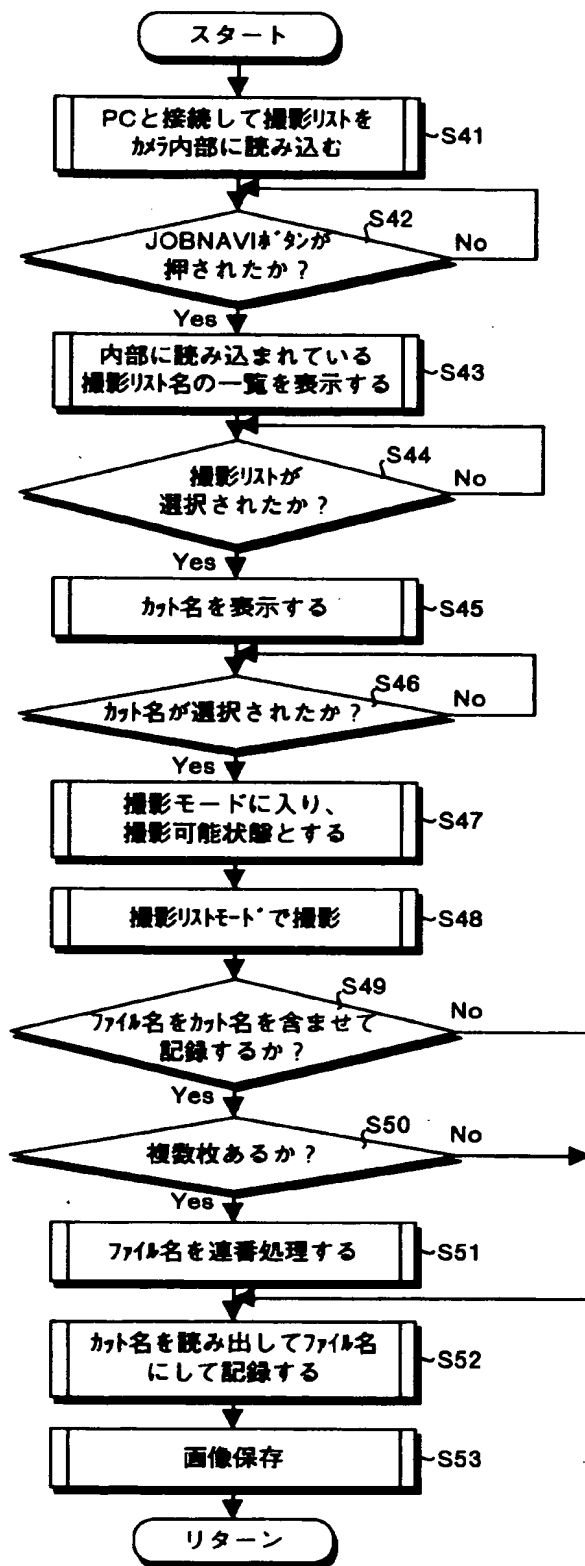
【図8】



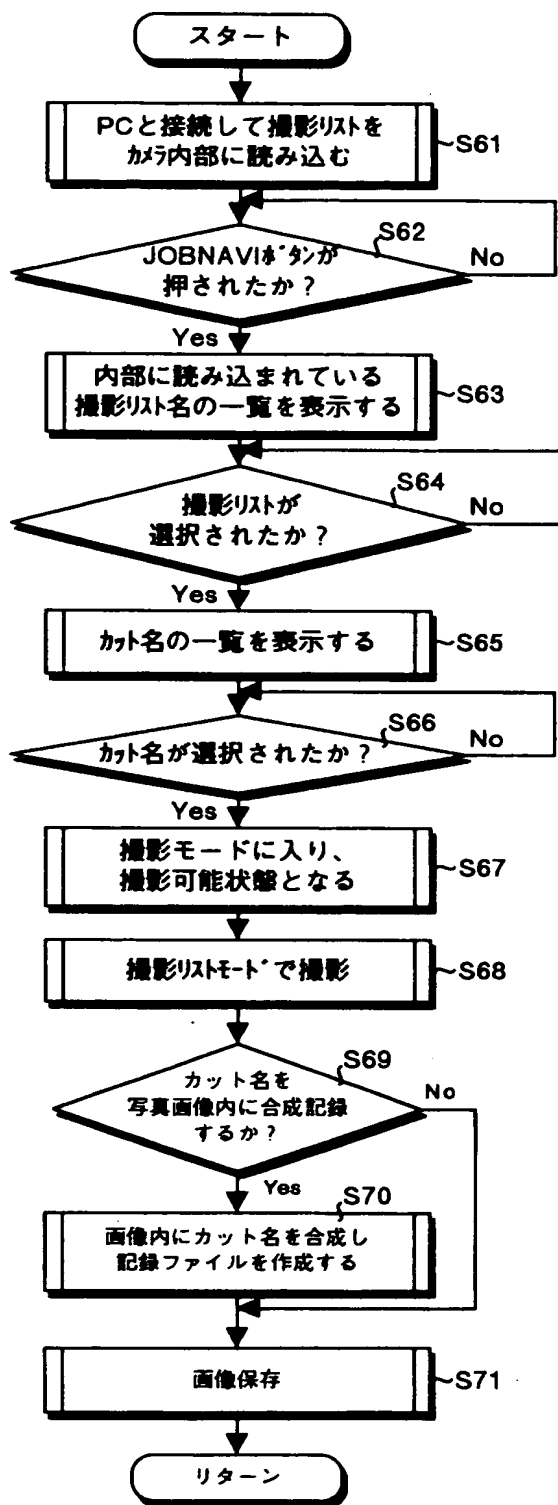
【図9】

[LIST TITLE]
title=カメラショウ' 99
[リコー]
RIMG0001.JPG
RIMG0005.JPG
[キャノン]
[ゼロックス]
RIMG0002.JPG
[カシオ]
RIMG0003.JPG
[ミノルタ]
[ソニー]
[コダック]
RIMG0004.JPG

【図10】

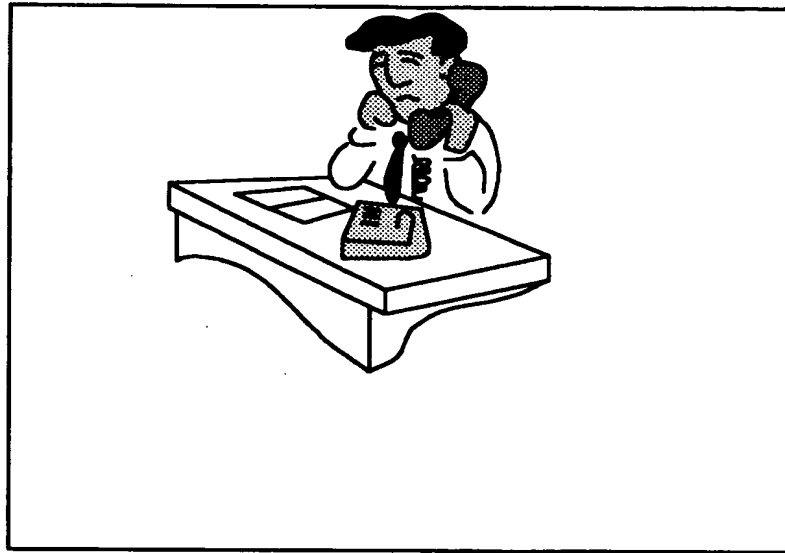


【図 1 1】

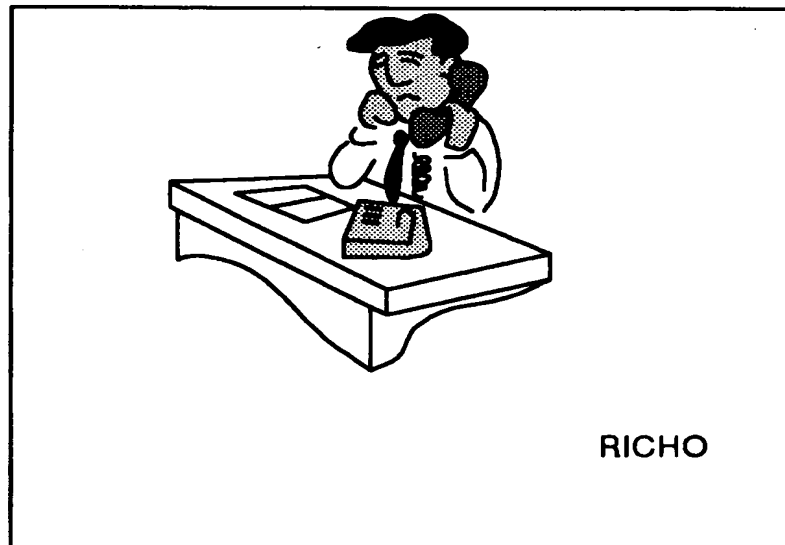


【図12】

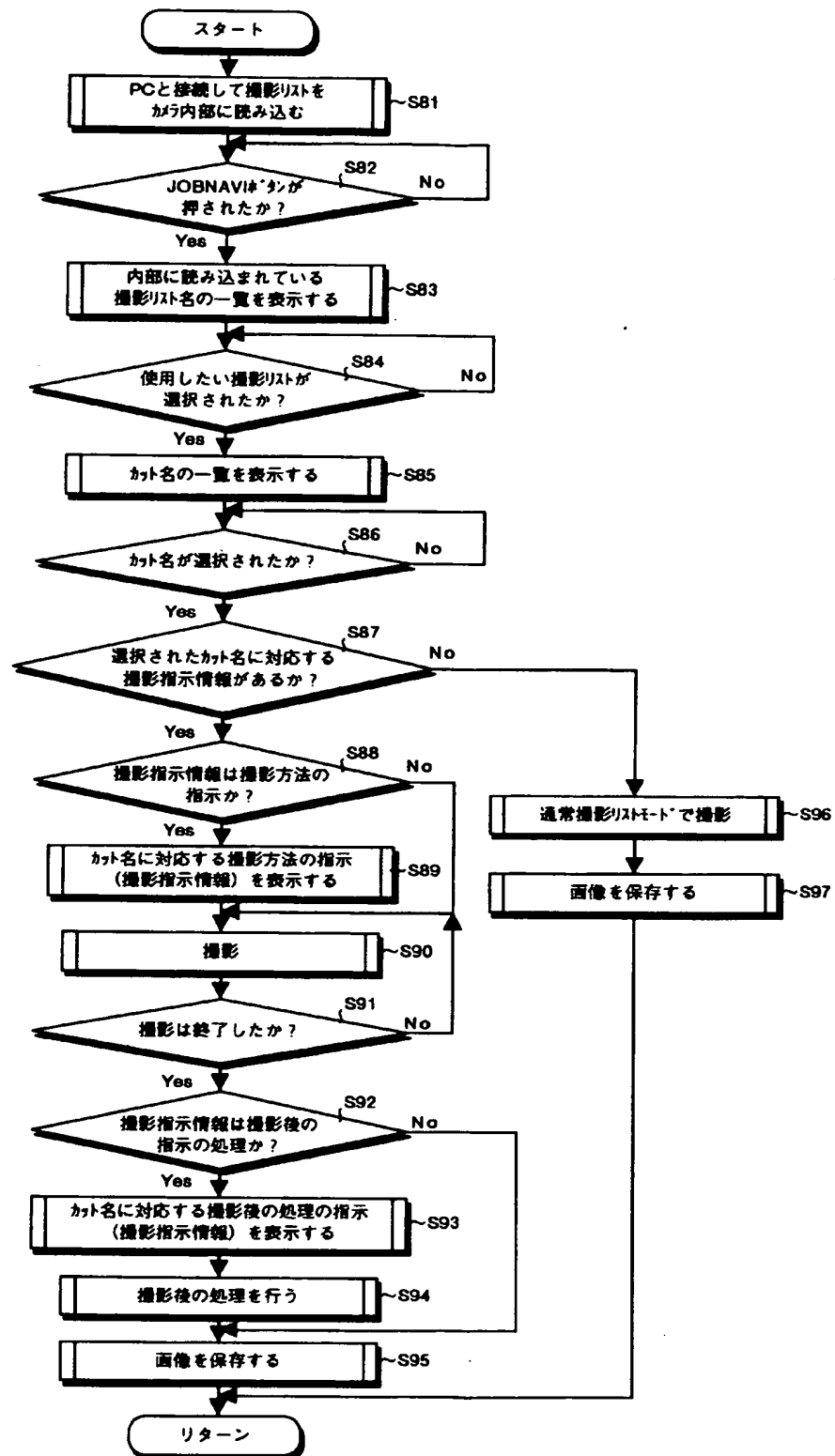
(A)



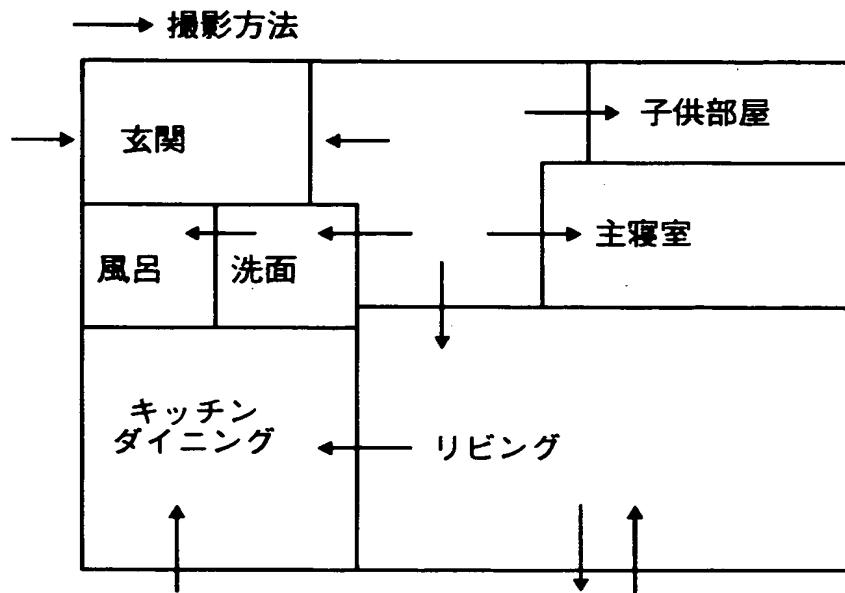
(B)



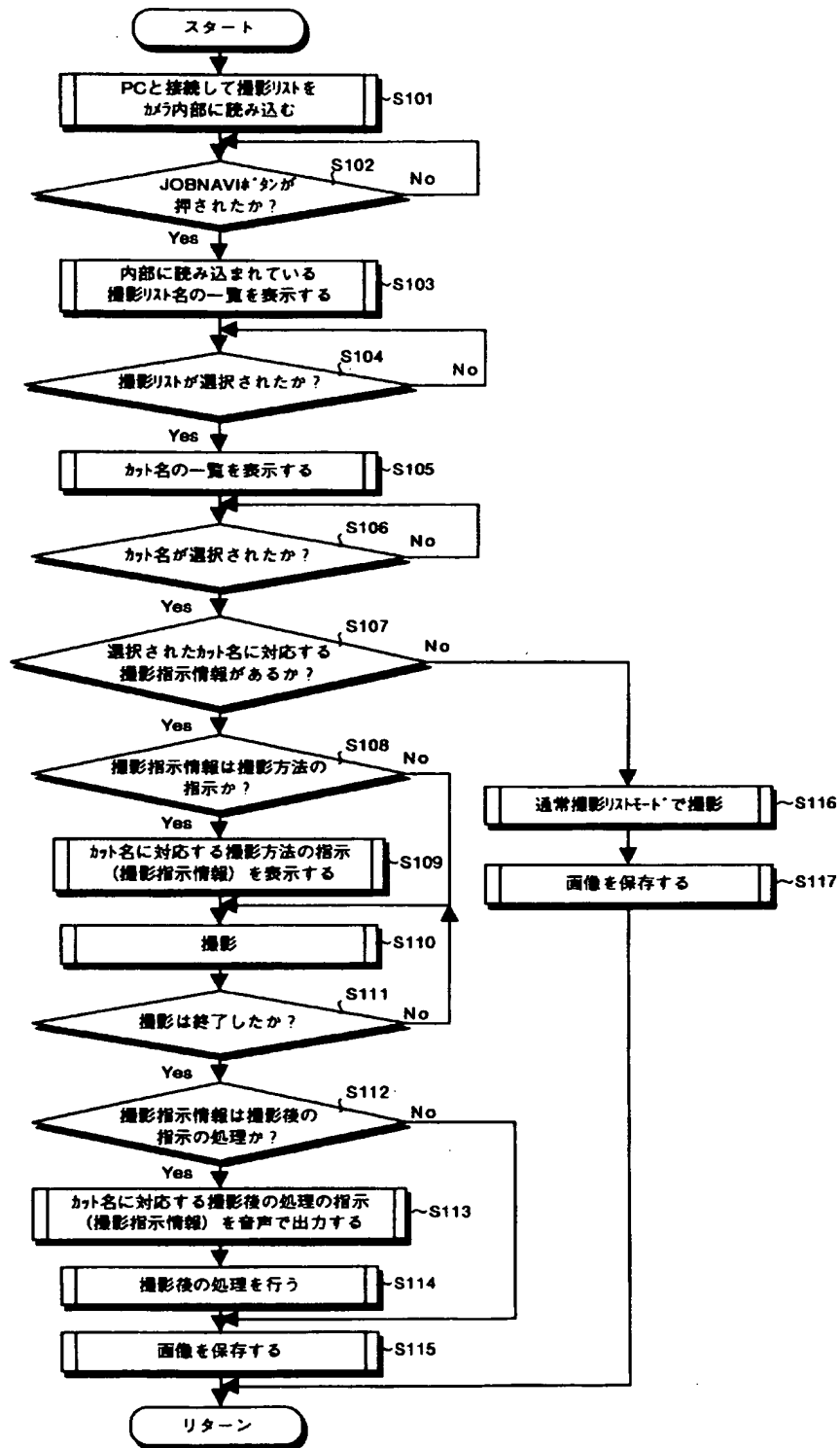
【図13】



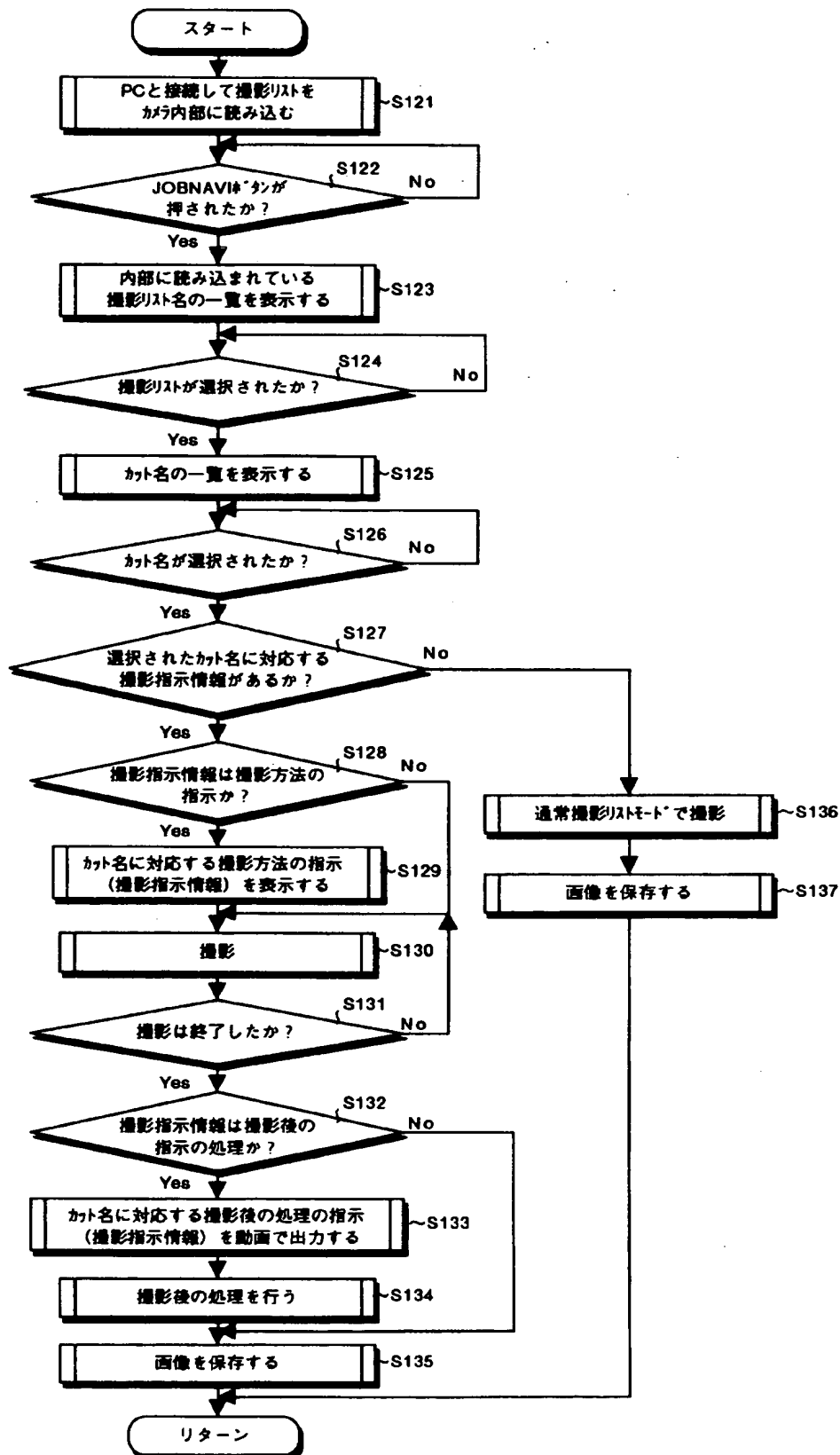
【図 1 4】



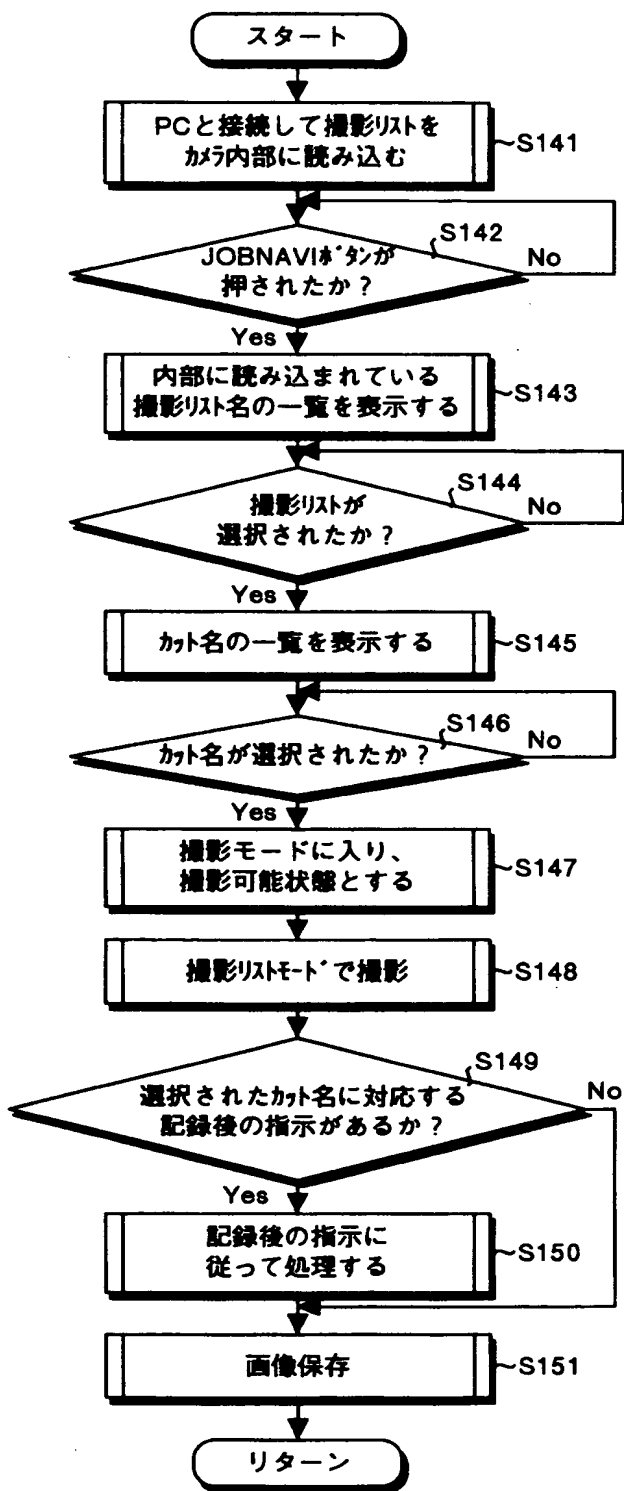
【図15】



【図 16】



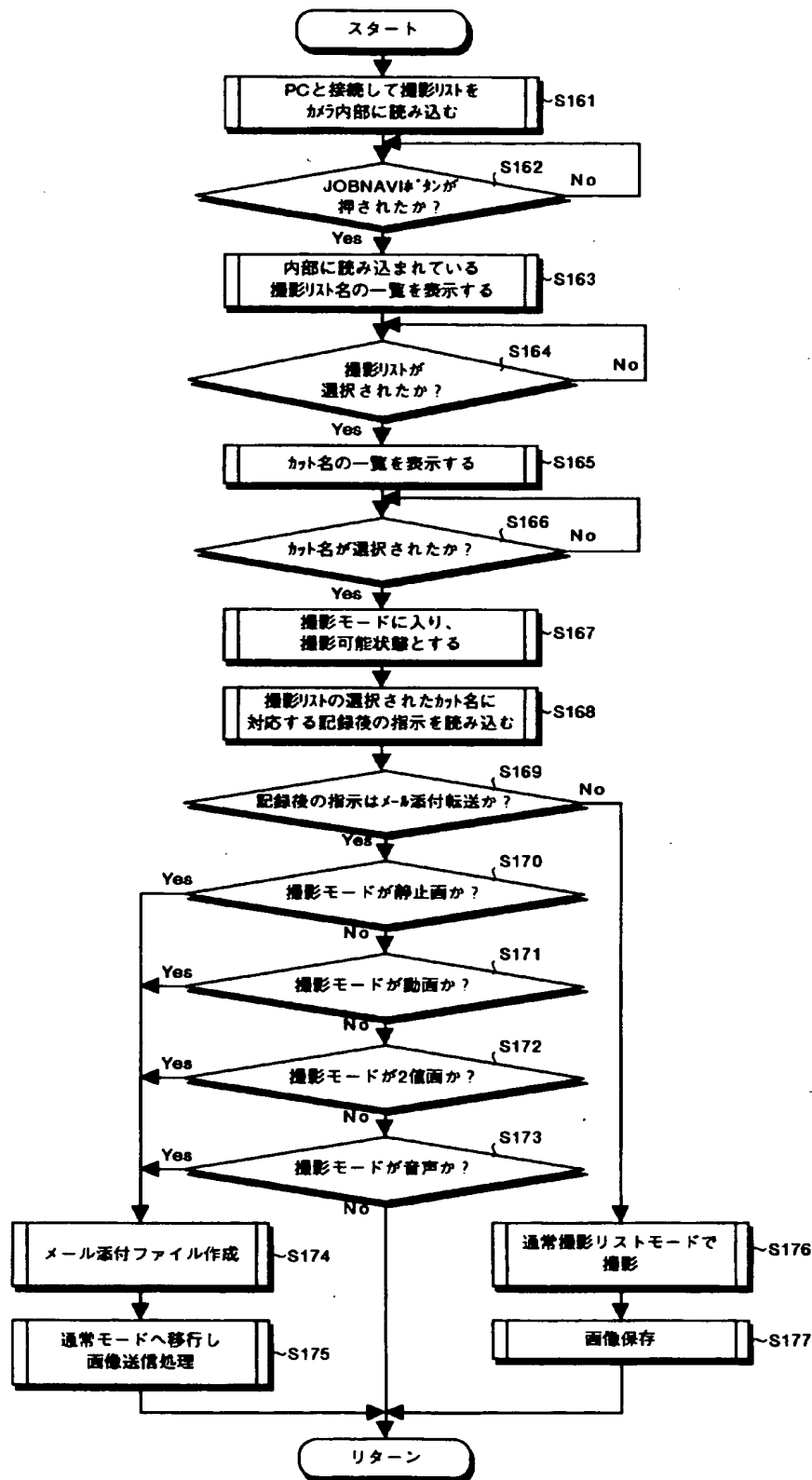
【図17】



【図 1 8】

Command	No
rename	3
paste	4
mail	6
mail thumbnail	7
mail resize	8
webupload	9
webupload send	10
report jobend	11
report mail jobend	12
report when	13
memo	14
memo mixed	15
memo*.wav	16
archive	17
save	18
stitch	19
adjuste	20
color	21
distortion	22
stamp data	30
stamp	31
pixels	32
pictures	33
exposure	34
speed	35
flash	36
size	37
ratio	38
secure	39
watermark	40
binarydata	41
movie	42
sound	43

【図19】

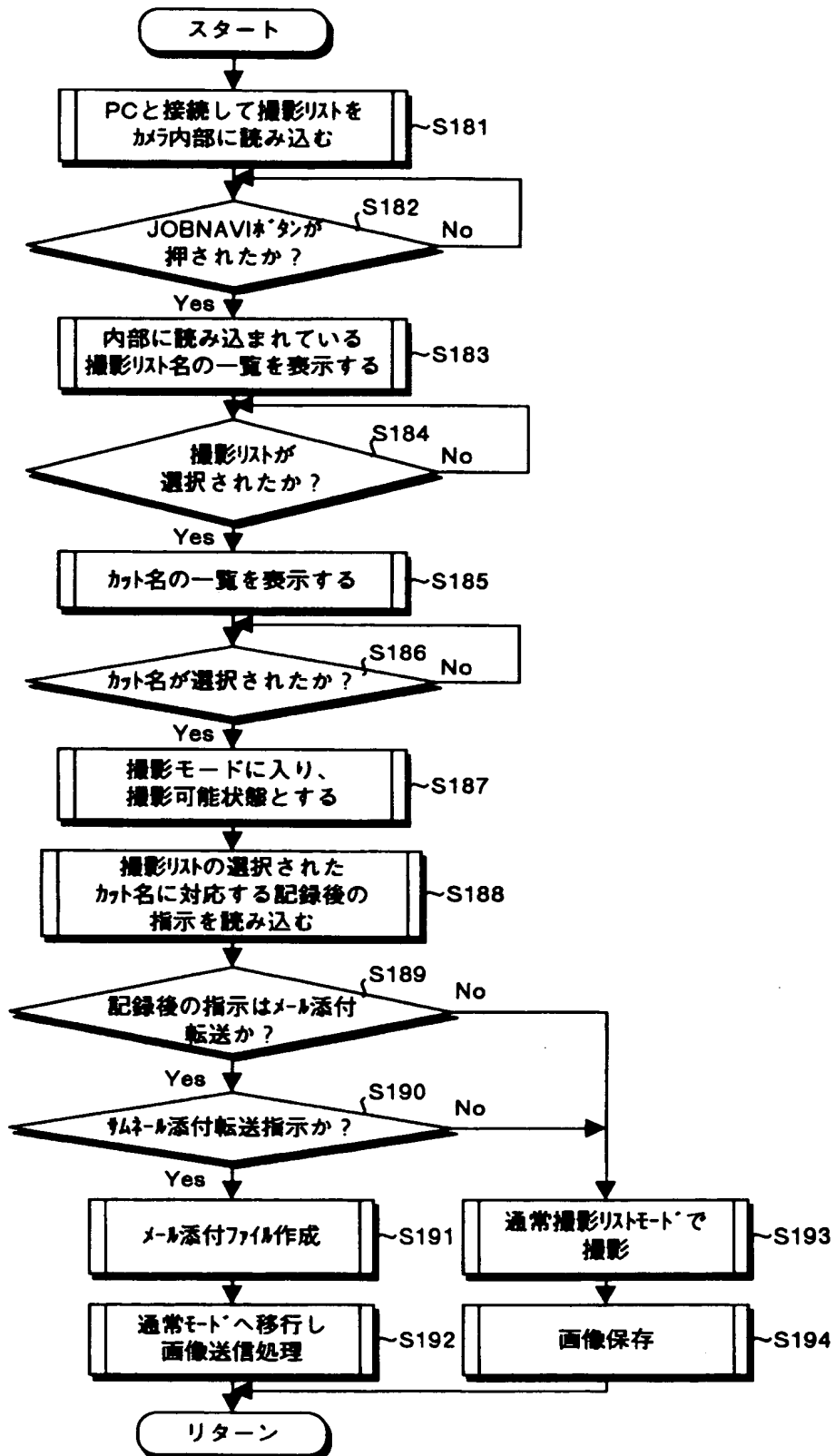


【図20】

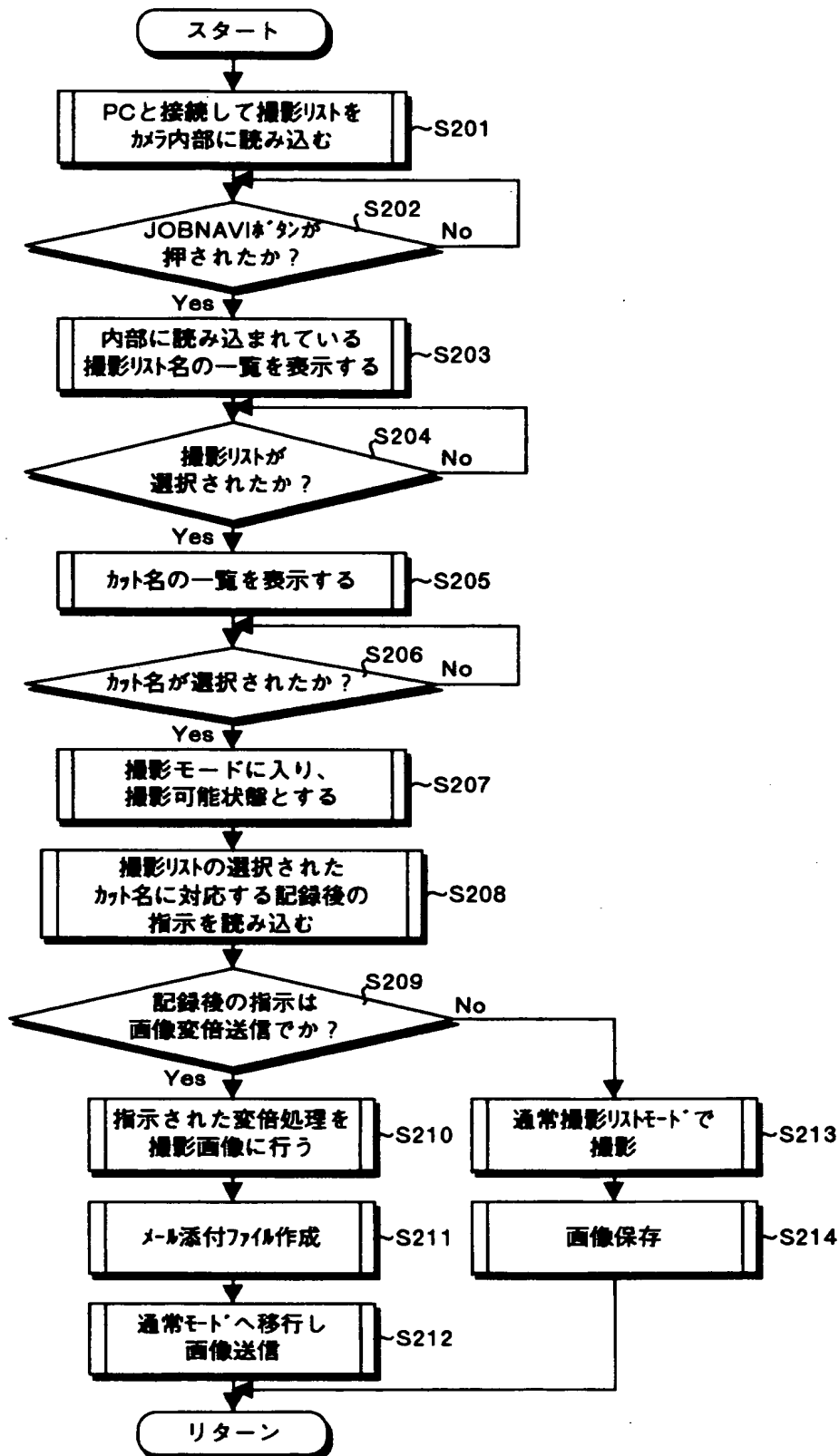
撮影の後処理として画像をメールで送るコマンドの例

```
mail <あて先>,<あて先>,...,<あて先>option
option:thumbnail サムネールを送る
      resize<サイズ> 指定したサイズに変倍して送る
      archive<ファイル名> 指定したファイル形式に変倍して送る
                           たとえば.LZH, .ZIP, .tar, .sit など
```

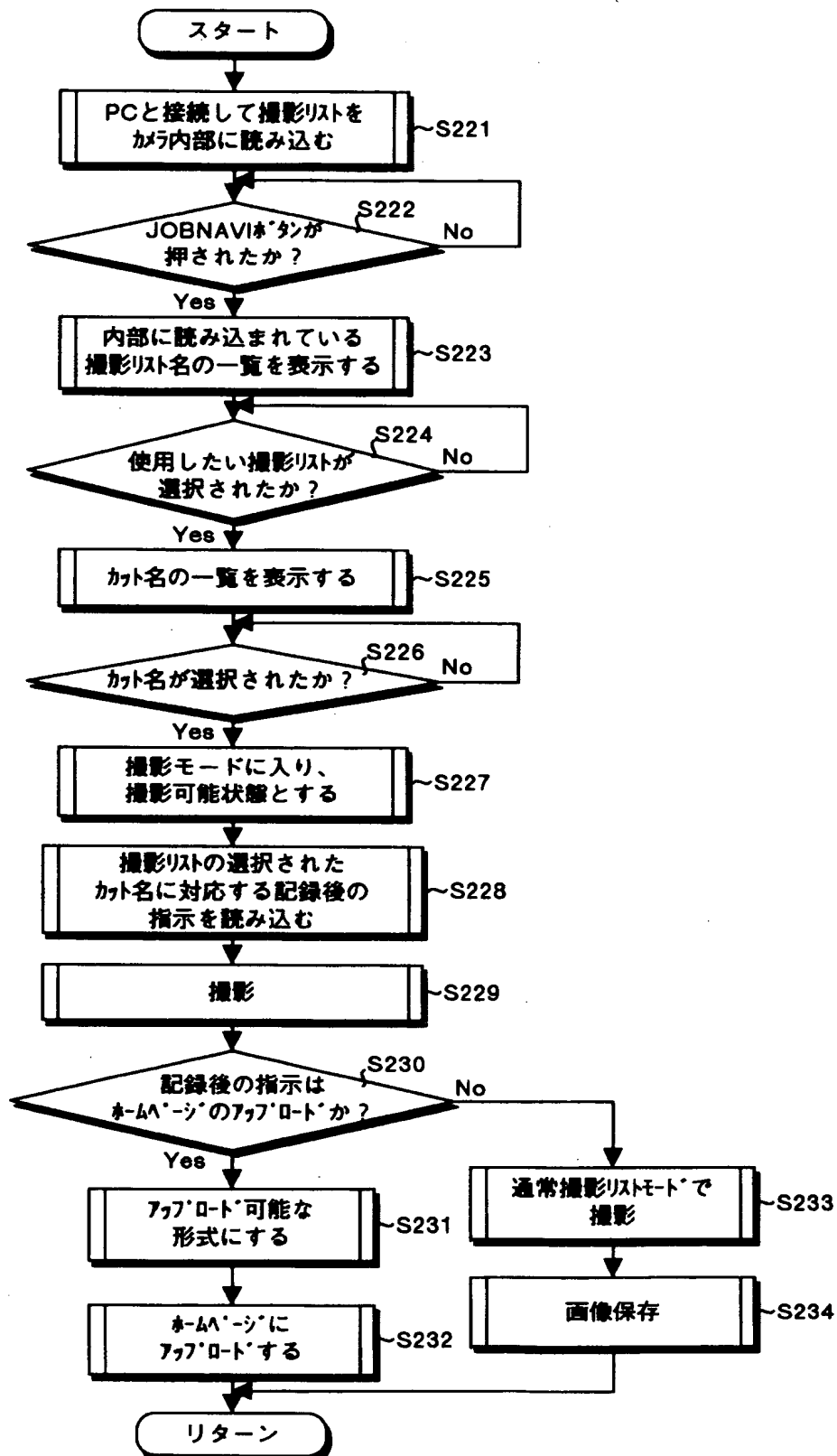
【図 21】



【図 22】



【図 23】

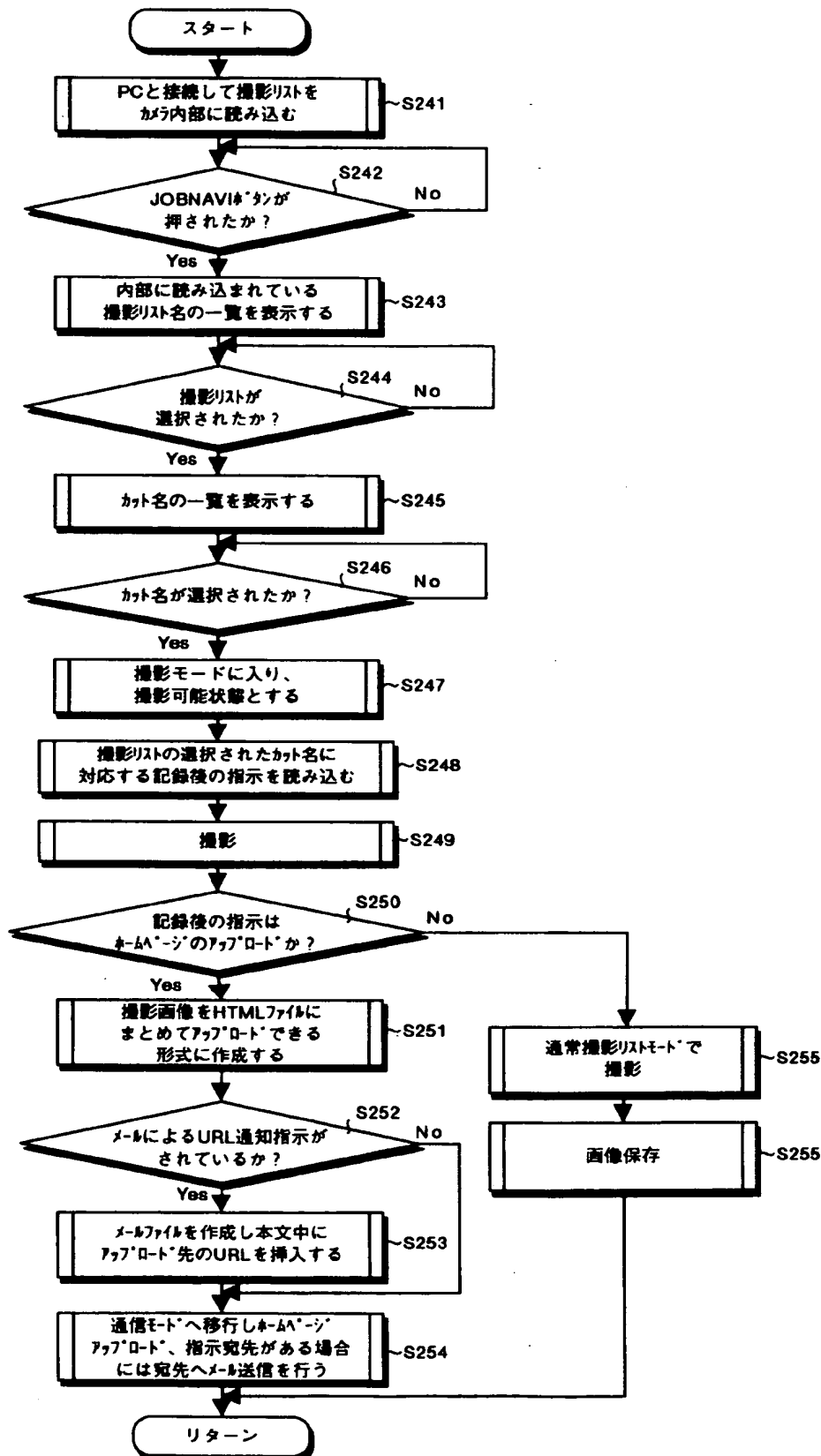


【図24】

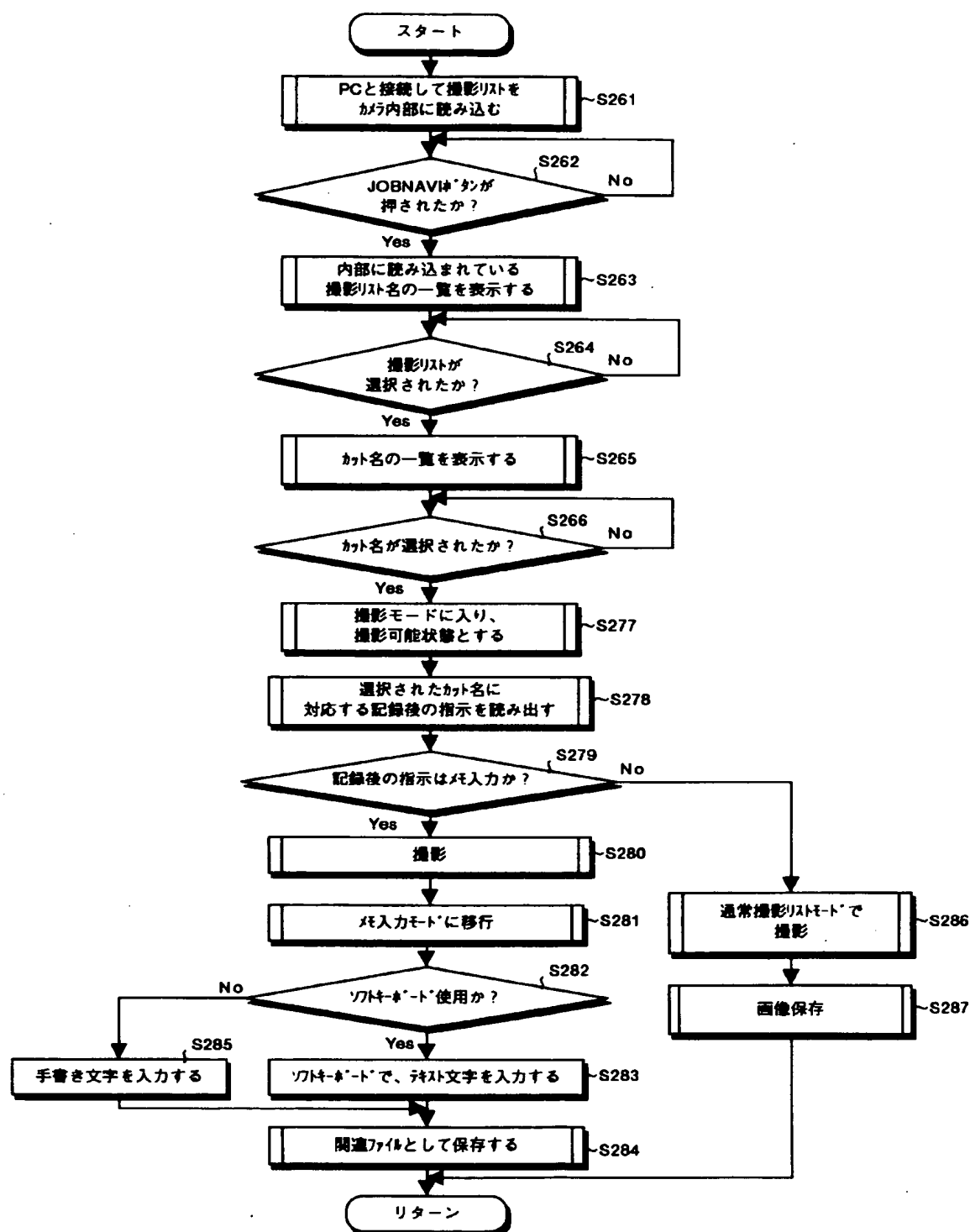
撮影の後処理として画像をWebサーバに
アップロードするコマンドの例

```
webupload <アップロード先アドレス>option
option:sendURL      アップロード先URLを通知するメールを
                     作る。(メールの草稿として保存)
resize<サイズ>      指定したサイズに変倍して送る
```

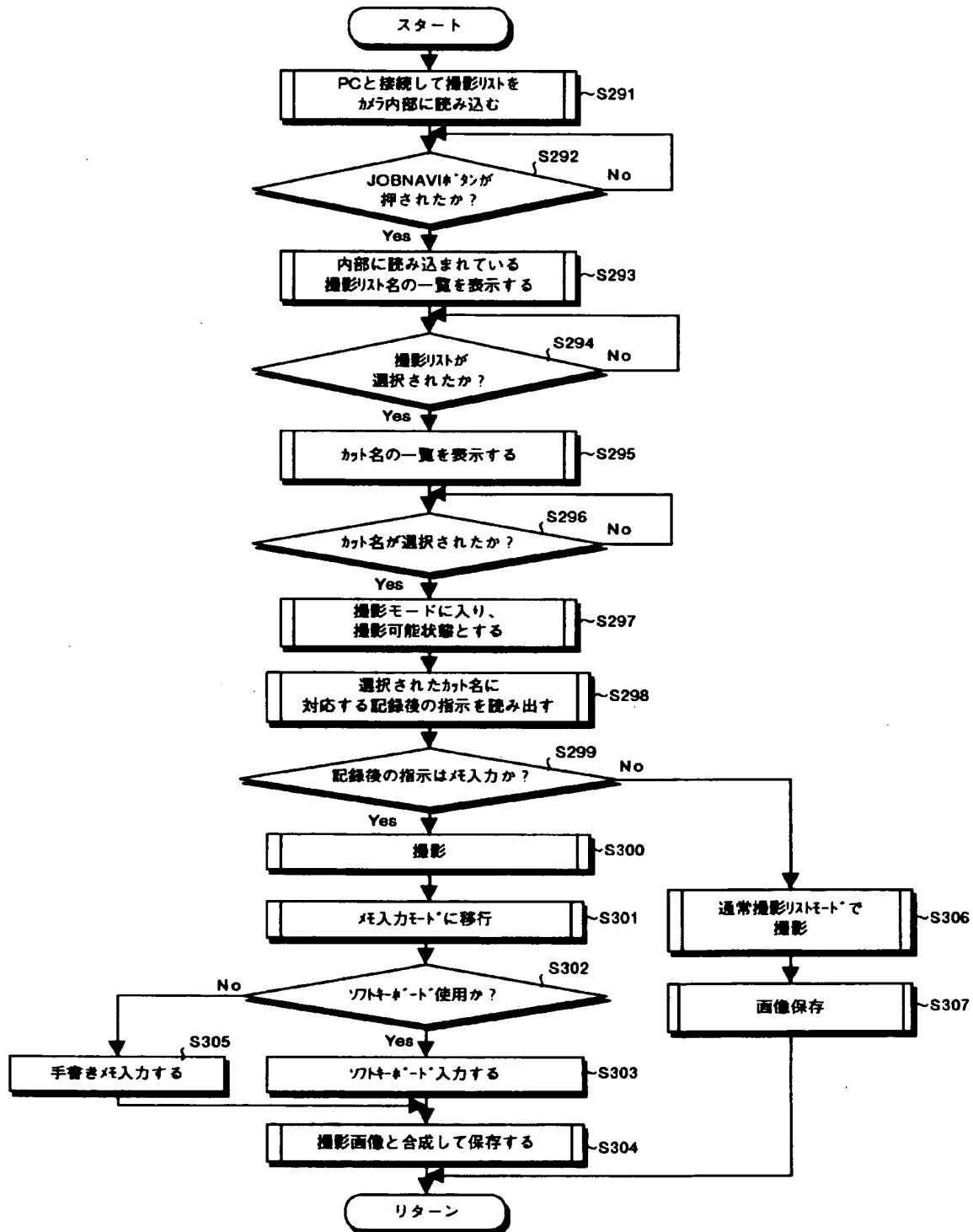
【図 25】



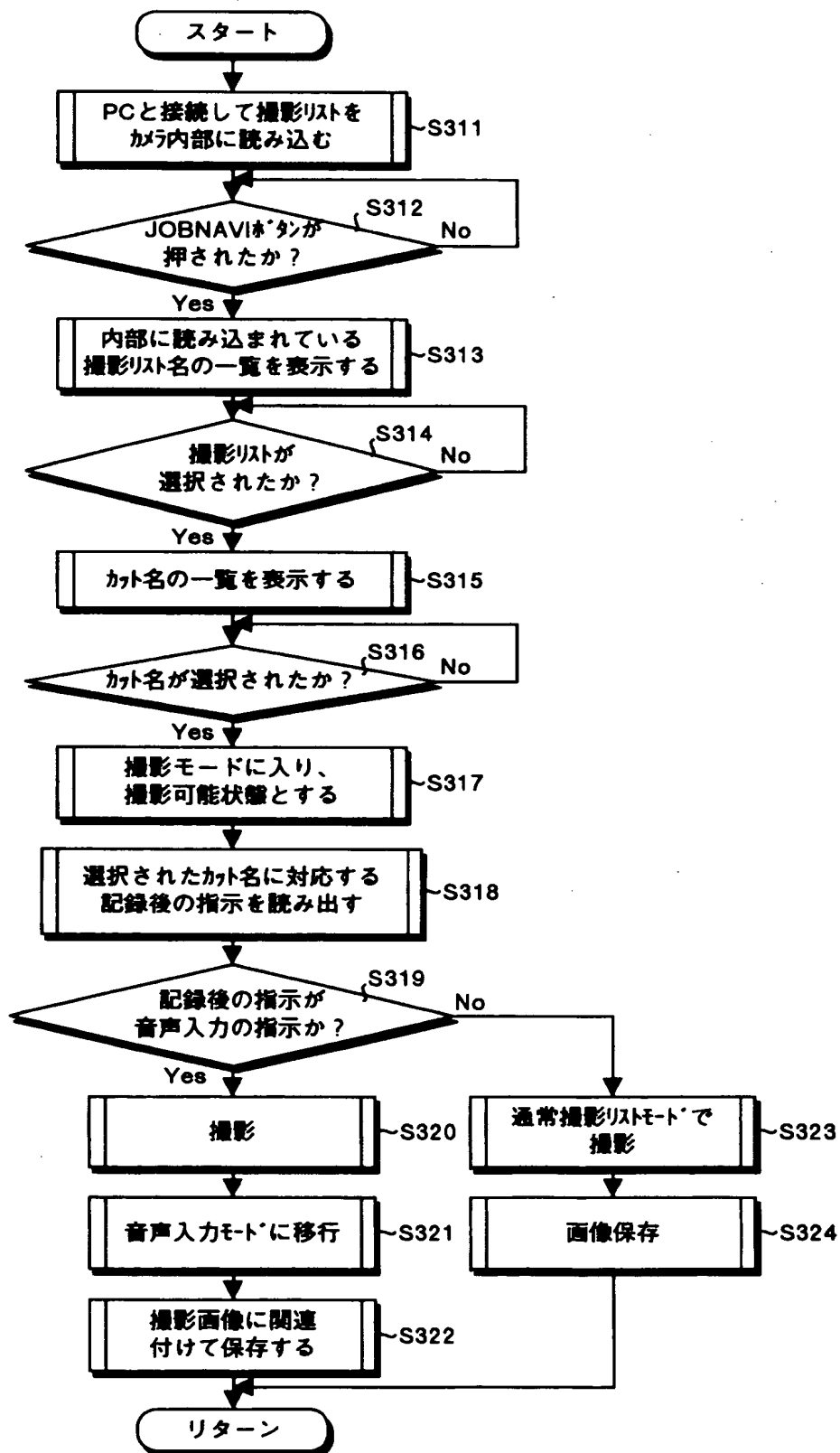
【図 26】



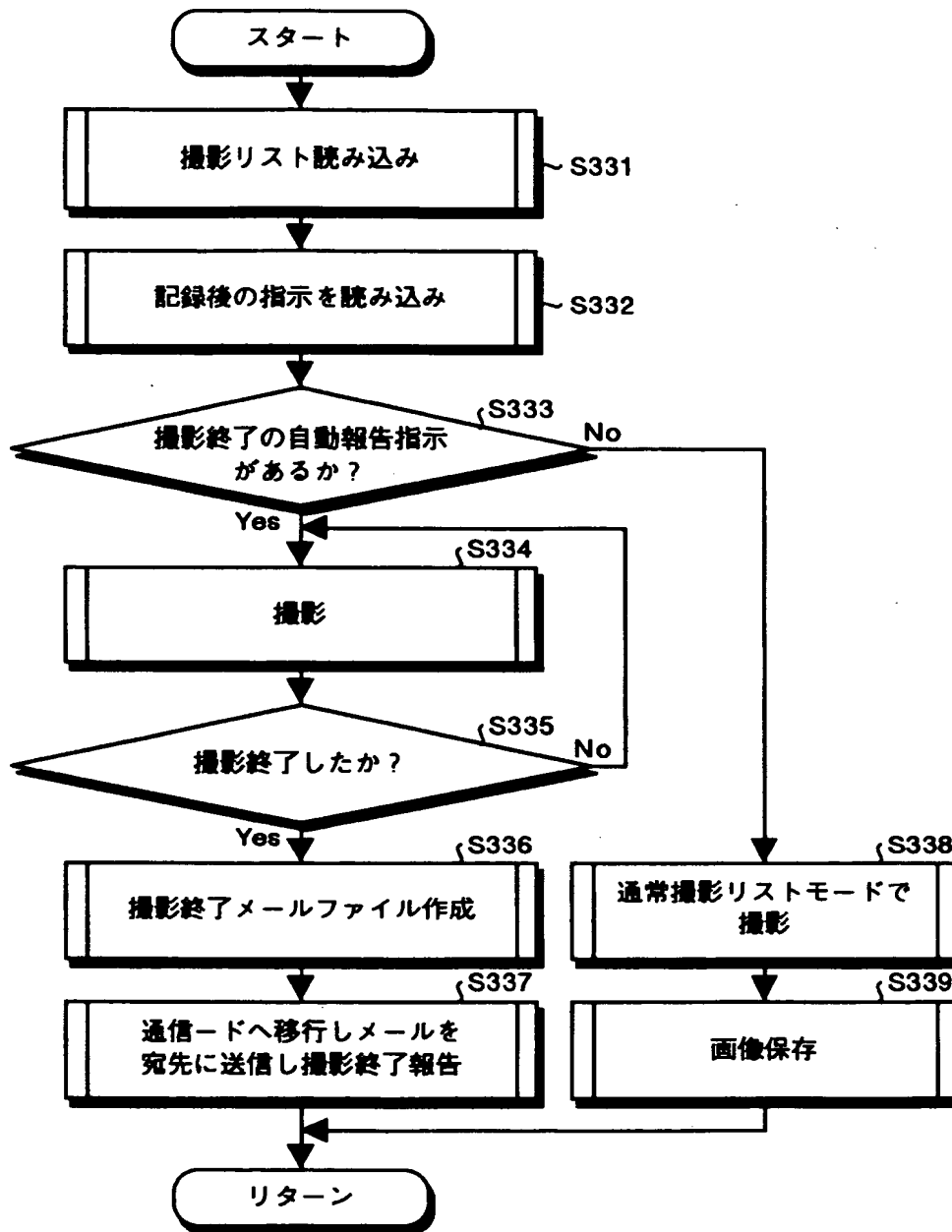
【図 27】



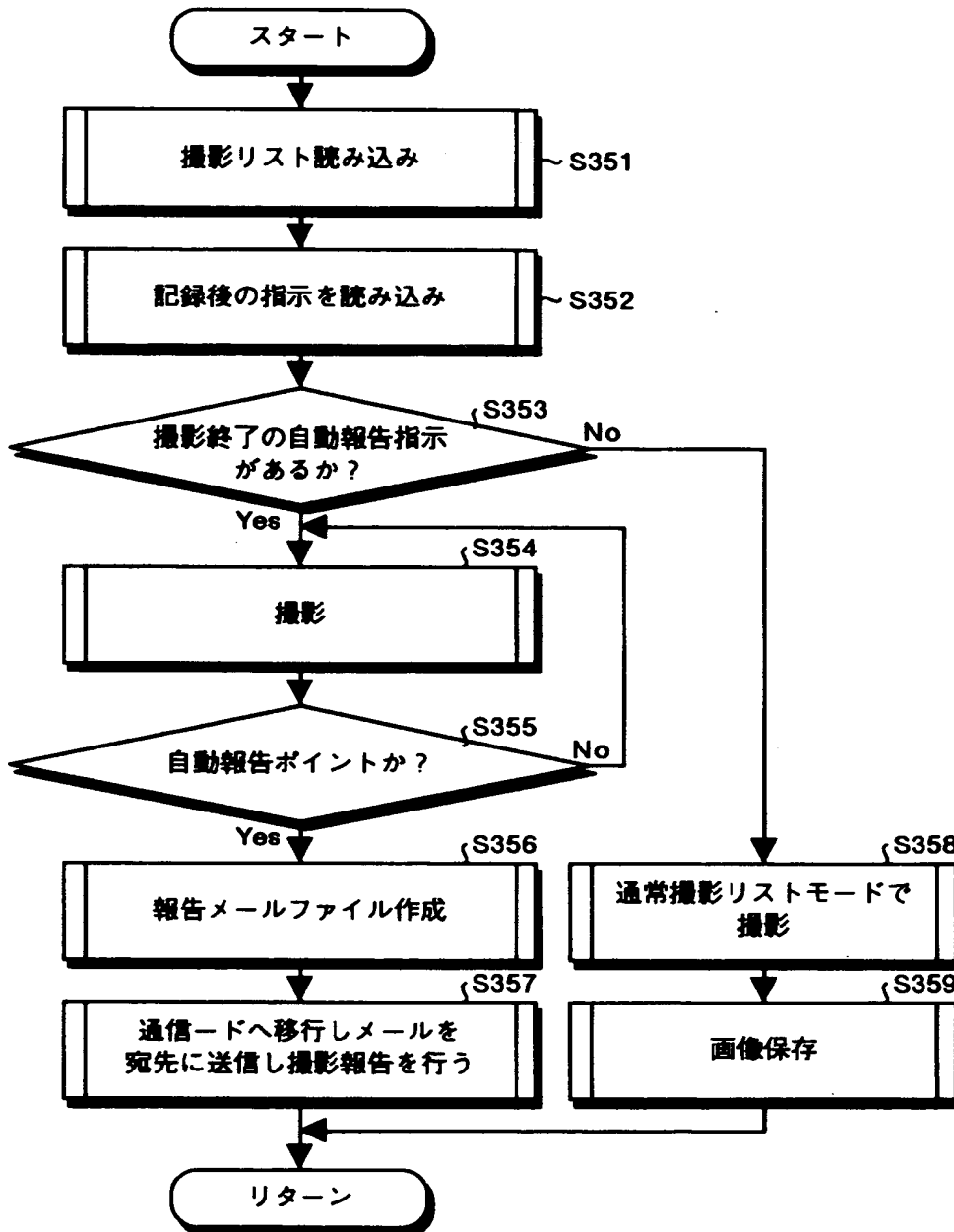
【図 28】



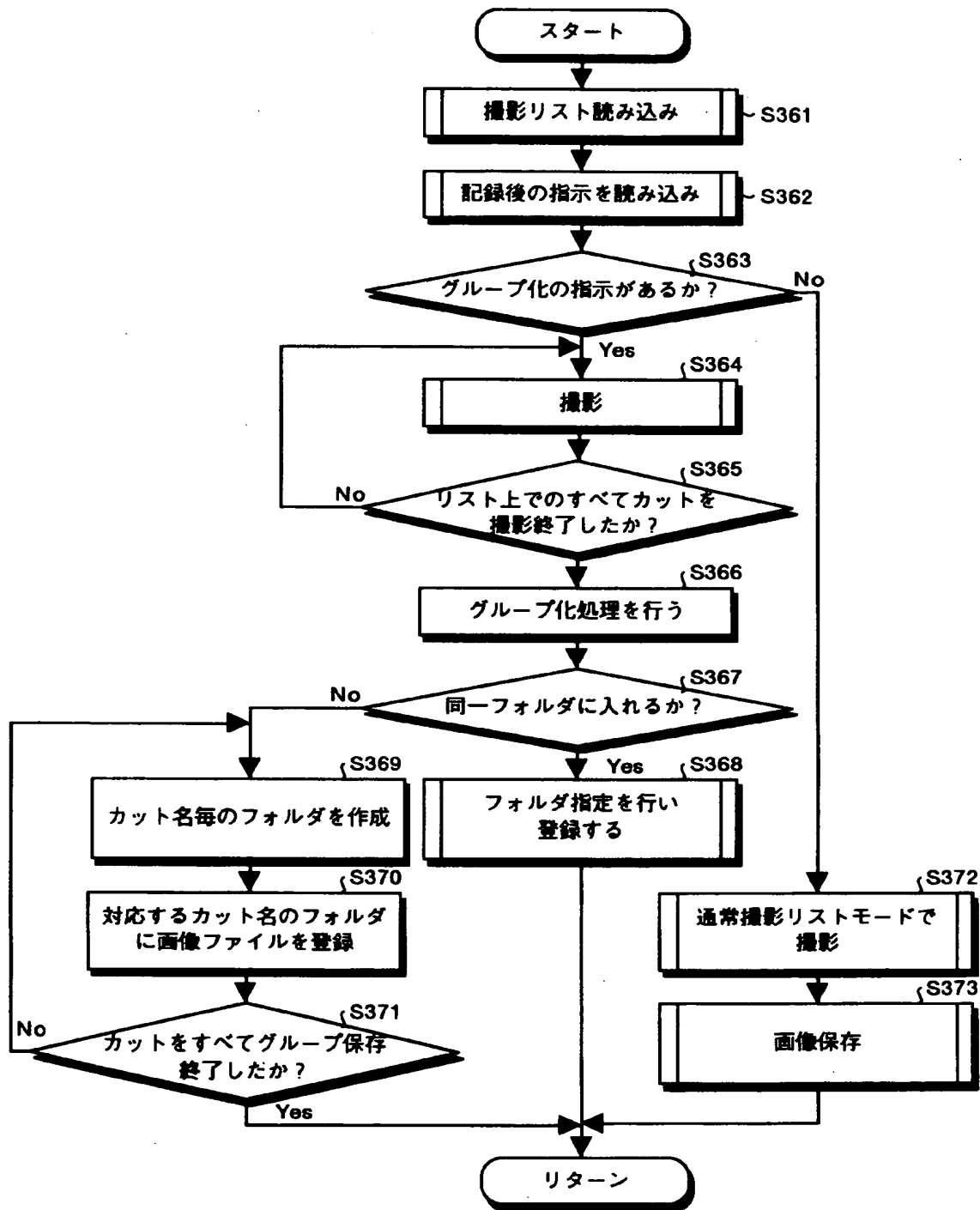
【図 29】



【図 30】



【図 31】



【図32】

100RLIST (フォルダ名)

CAMERA_SHOW99.1st (撮影リスト名)

RIMG001.jpg

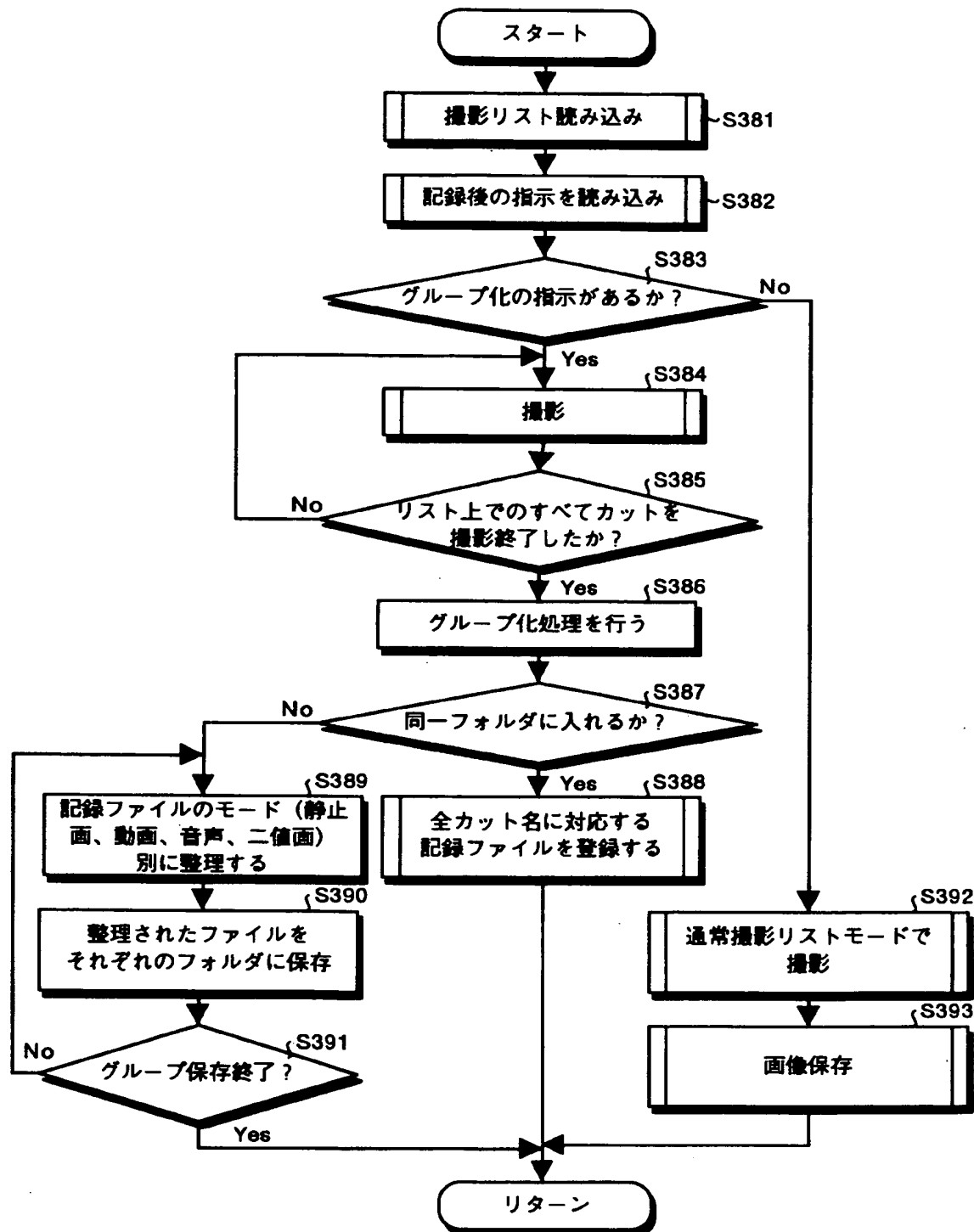
RIMG005.jpg

RIMG002.jpg

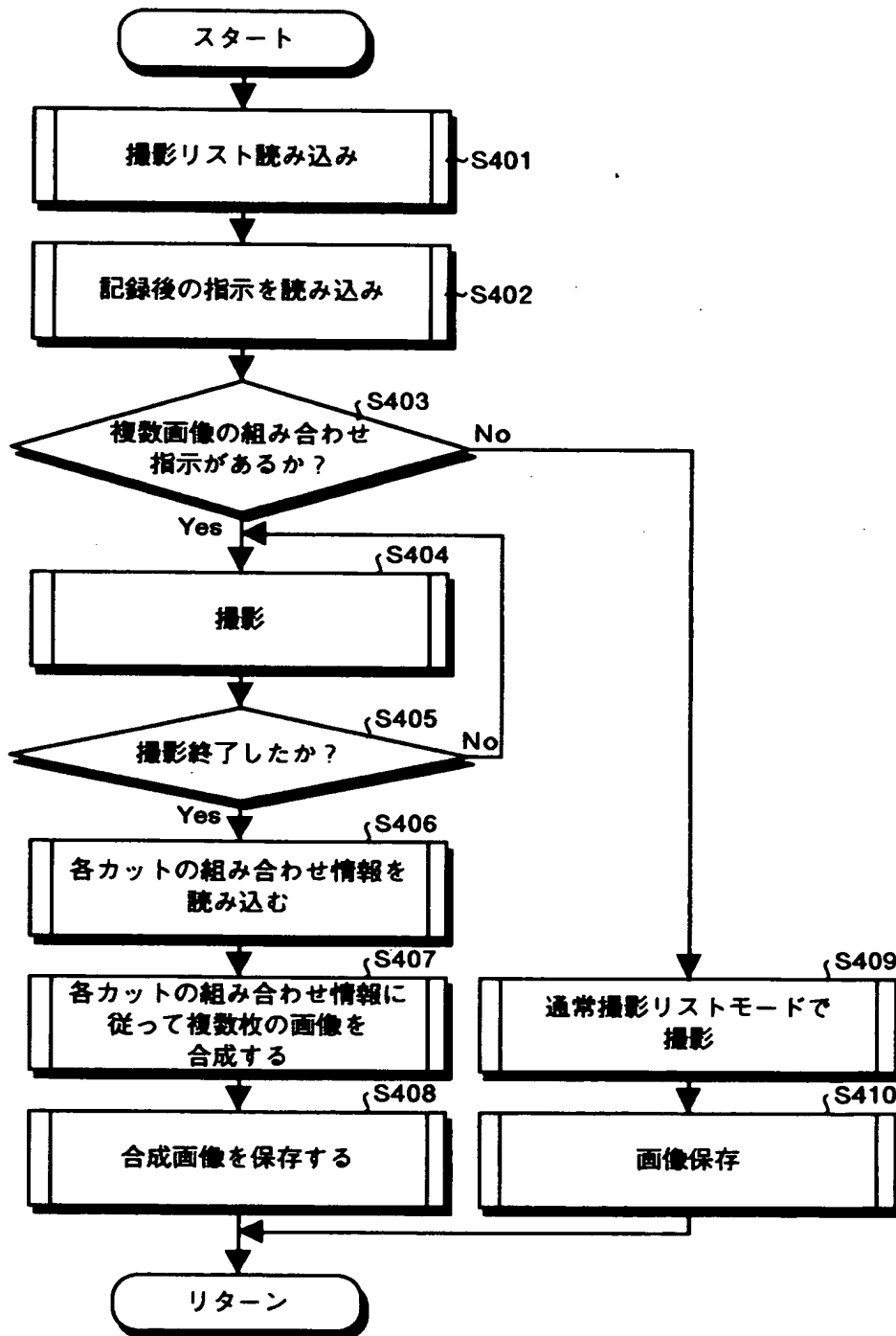
RIMG003.jpg

RIMG004.jpg

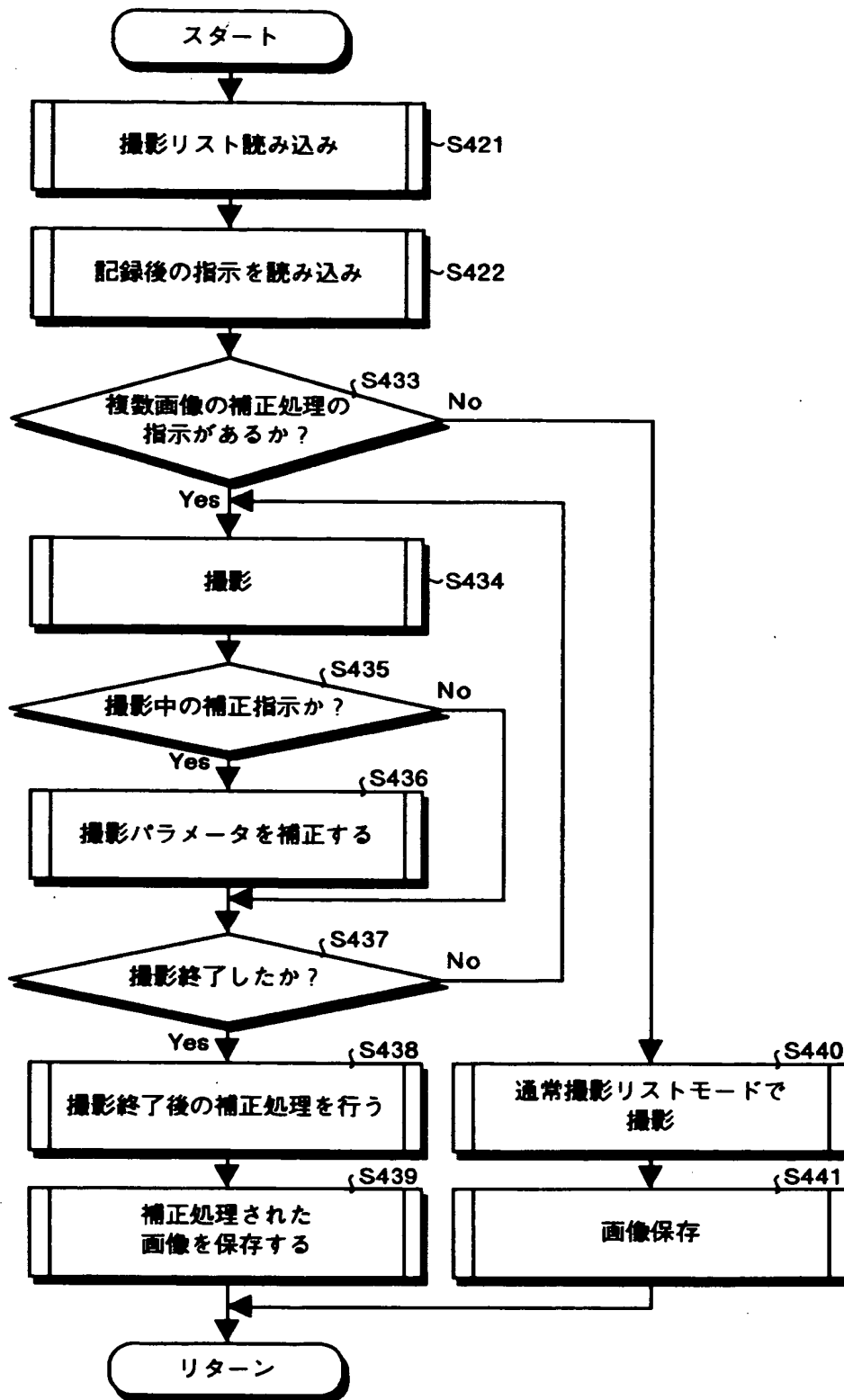
【図 33】



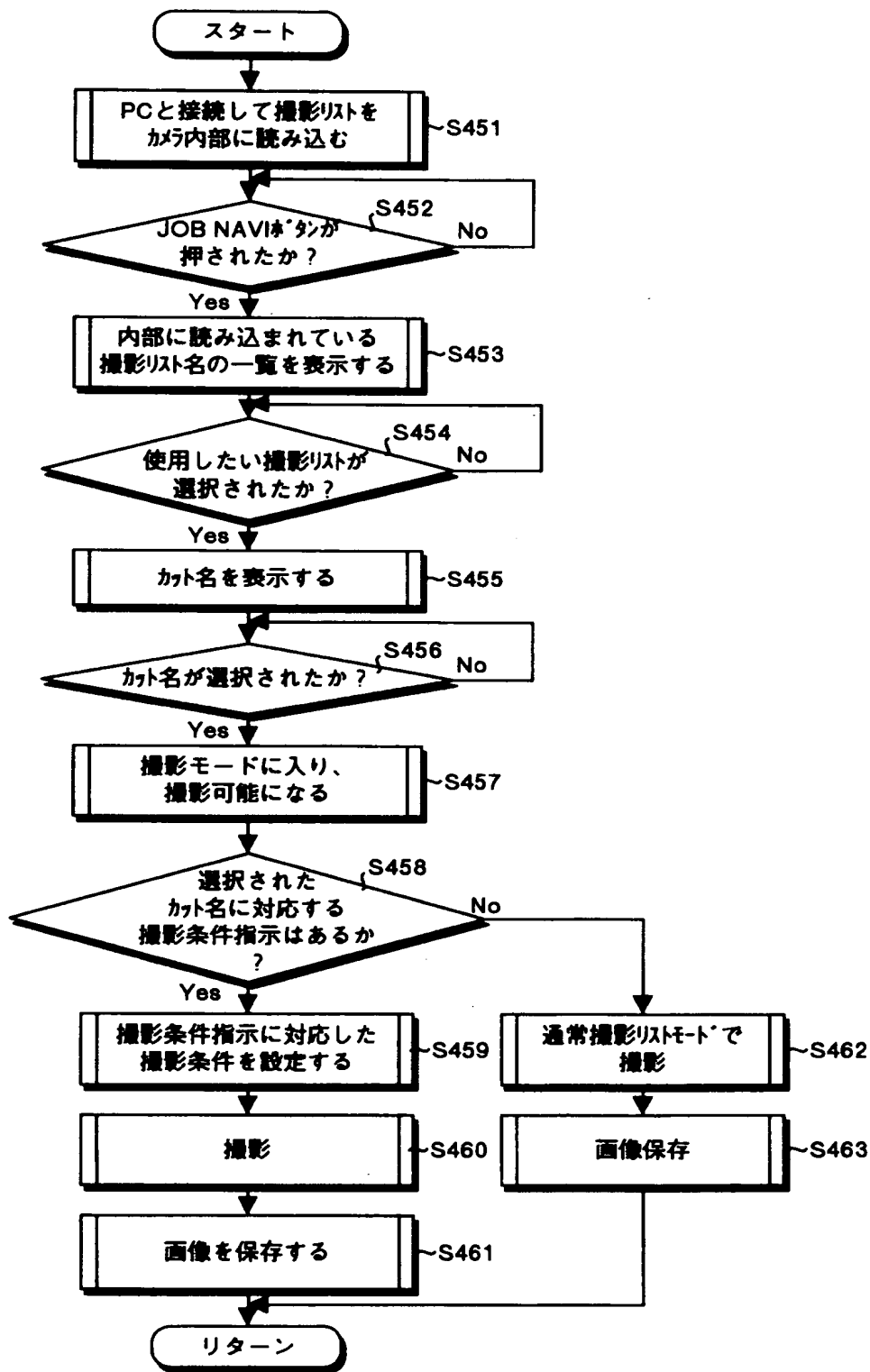
【図 34】



【図 35】



【図 36】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 必要な被写体の取り忘れや作業漏れを防止可能な画像入力装置、デジタルカメラ、携帯情報入力装置、情報処理装置、および画像入力システムを提供すること。

【解決手段】 被写体像を結像するための光学系と、結像された被写体像を画像データに変換する撮像手段と、少なくとも、記録すべき被記録対象の1または複数のカット名を含む撮影リストを入力するための入力手段と、入力手段で入力された撮影リストを記憶する記憶手段と、撮影リストに含まれるカット名を表示するための表示手段と、を備えている。

【選択図】 図 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000006747]

1. 変更年月日 1990年 8月24日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
氏 名 株式会社リコー